第４次
甲府市観光振興基本計画

令和８年３月

山梨県甲府市

第４次甲府市観光振興基本計画の策定にあたって

近年、国におきましては、観光を成長戦略の柱の一つとして位置付け、地域の個性を活かした観光振興を通じて地方創生を推進してきました。一方で、人口減少や少子高齢化の進行、価値観やライフスタイルの多様化など、地域を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。さらに、新型コロナウイルス感染症を経て、人々の行動や旅行に対する意識も変化し、観光には量的な拡大に加え、地域との関係性や質が求められるようになりました。

こうした中、観光は地域経済を支えるとともに、人と人との交流を生み、地域資源の価値を再認識し、まちへの誇りと愛着を育む力を持つものです。観光を通じて地域の魅力が磨かれることは、訪れる方々だけでなく、そこに暮らす人々にとっても、まちの価値を見つめ直す機会となります。

本市は、四方を山々に囲まれた豊かな自然環境のもと、武田氏ゆかりの歴史と文化を礎に、宝飾産業をはじめとするものづくりの技術や、人々の暮らしの積み重ねによって歩みを重ねてきました。自然、歴史、文化、産業、そして人々の営みが重なり合って形づくられてきた本市の姿は、他に代えがたい魅力であり、将来に向けてさらに磨き高めていくべき大切な財産です。

この財産を次の世代へつなげていくためには、暮らしの中に息づく魅力を大切にしながら、その価値を多くの人と共有していく観光の視点が欠かせません。暮らしの質を高める取組と観光振興を重ね合わせ、市民の皆様の生活と調和した形で地域の魅力を磨き続けることが、将来にわたり本市が持続的に発展していくために重要であると考えます。

本計画は、今後５年間にわたる本市の観光振興の方向性を示す指針として策定したものです。行政だけでなく、市民の皆様、観光事業者、関係団体の皆様と目標を共有し、将来に向けた共通の道しるべとして、ともに歩んでいくための計画です。

観光振興は、地域に関わる一人ひとりの参加と協力なくしては成し得ません。私自身も先頭に立ち、皆様との連携と対話を重ねながら、本計画に掲げた取組を着実に推進してまいります。

結びに、本計画の趣旨をご理解いただき、今後の取組に対し、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本市が、次の世代へ誇れるまちであり続けるよう、全力を尽くしてまいります。

令和８年３月
甲府市長　樋口　雄一

目　次

序章　はじめに　P1

01　計画策定の背景と目的 ･･････ P3
02　計画の位置付け ･･････ P4
03　計画の期間 ･･････ P5

第1章　甲府市の観光を取り巻く状況　P7

01　我が国の観光動向 ･･････ P9
02　山梨県の観光動向 ･･････ P13

第2章　甲府市の観光の近況　P19

01　甲府市の地域資源とエリア別の整理 ･･････ P21
（1）甲府市の地域資源
（2）エリア別の地域資源の整理
02　前計画における取組の振り返り ･･････ P29
（1）前計画の実施状況の評価
（2）数値目標の評価
03　データでみる甲府市の現状 ･･････ P34
（1）観光客アンケート調査
（2）市民アンケート調査
（3）事業者アンケート調査
04　現状からみる課題 ･･････ P48

第3章　目指すべき観光地像と基本方針　P49

01　甲府市の目指すべき観光地像 ･･････ P51
02　観光地像の実現に向けた5つの基本方針 ･･････ P52

第4章　施策と具体的な取組　P53

01　施策体系 ･･････ P55
02　基本方針1の具体的な取組 ･･････ P57
03　基本方針2の具体的な取組 ･･････ P65
04　基本方針3の具体的な取組 ･･････ P73
05　基本方針4の具体的な取組 ･･････ P77
06　基本方針5の具体的な取組 ･･････ P81
07　事業一覧 ･･････ P85

第5章　実現に向けて　P87

01　推進体制 ･･････ P89
02　数値目標 ･･････ P90
03　進行管理 ･･････ P91
（1）PDCAサイクルによる進行管理
（2）推進会議

序章

はじめに

01 | 計画策定の背景と目的

近年、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。新型コロナウイルス感染症の影響から回復が進む中、国内旅行の需要が回復するとともに、訪日外国人旅行者数は過去最高水準を更新するなど、国内外の人の往来が一層活発化しています。

また、従来の団体旅行を中心とした観光の在り方から、個人や少人数による旅行が主流となり、体験や滞在の観光を通じて、地域の自然、歴史、文化、暮らしといった魅力を深く味わう動きが広がっています。環境への配慮や地域社会との共生を重視した持続可能な観光の実現は、国内外において共通する重要なテーマとなっています。

このような社会情勢の変化を背景に、観光は単なる交流人口の拡大や消費の創出にとどまらず、地域の価値を高め、市民の暮らしや地域経済を支える重要な役割を担う分野として位置付けられます。

本市におきましても、これまでの「観光客を誘致する」取組に加え、観光を通じて市民の生活の質の向上や地域産業の活性化、地域への誇りの醸成につなげていく「観光を軸とした地域マネジメント」の視点が、これまで以上に重要となっていることから、市民、事業者、観光に関係する団体、行政がそれぞれの役割を担いながら連携し、本市の将来を見据えた観光地域づくりを進めていくことが求められています。

このたび策定する「第４次甲府市観光振興基本計画」は、今後５年間において本市が目指す観光振興の方向性と、その実現に向けた取組を示しています。

本計画では、本市が世界に誇る宝飾産業をはじめ、「日本遺産 御嶽昇仙峡」に代表される豊かな自然、1200 年の歴史を有する本市唯一の温泉街「信玄の湯 湯村温泉」、さらには四季を通じて育まれる農産物や、地域の風土に根差した食文化など、本市ならではの多様で魅力ある地域資源を最大限に活かしながら、「人とまちが共に輝く山の都」の実現を目指します。

02 | 計画の位置付け

本市では、令和２年度に策定した「第３次甲府市観光振興基本計画」（以下「前計画」という）に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が大きく落ち込む中にあっても、観光の再生と持続的な発展を目指した取組を進めてきました。前計画では、地域資源を活かした付加価値の高い観光コンテンツや周遊プランの造成に向けて、観光事業者や地域団体、行政が連携して取り組む体制づくりを進めるとともに、来訪者が市内を回遊し、賑わいを感じられる観光地づくりを目標に各施策を展開してきました。

本計画では、こうした前計画に基づく取組の成果や課題を検証するとともに、インバウンド需要の拡大や旅行形態の変化、持続可能な観光への関心の高まりなど、近年の観光を取り巻く社会環境の変化を踏まえ、現状や課題を整理・分析します。その上で、令和８年度を初年度とする「第七次甲府市総合計画」に掲げる基本目標や観光分野に関する施策の方向性と整合を図りながら、今後５年間において本市が重点的に取り組むべき観光振興の方向性を示す「第４次甲府市観光振興基本計画」を策定します。

◆計画の位置付け

国の関連法令・計画

- 観光立国推進基本法
- 観光立国推進基本計画

県の関連計画

- やまなし観光推進計画
- やまなし未来観光地づくり推進計画

→

上位計画

- 第七次甲府市総合計画

↓

第４次甲府市観光振興基本計画
＜計画期間：令和８年度～令和12年度＞

↕

＜関連計画＞
◇甲府市産業ビジョン
◇甲府市宝飾産業進行戦略プラン
◇甲府市農業振興計画
◇甲府市都市計画マスタープラン
◇甲府市地域交通計画　等

03 | 計画の期間

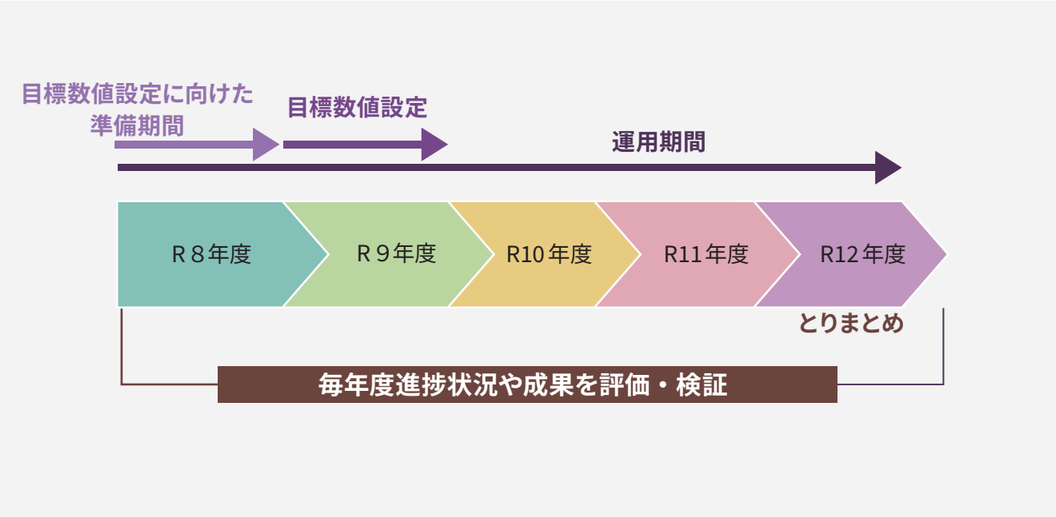
本計画の期間は、令和８年度から令和12年度までの５年間とします。

計画に定める施策及び具体的な取組については、毎年度、その進捗状況や成果を評価・検証し、社会情勢や観光を取り巻く環境、市民意向等を踏まえながら、必要に応じて見直しを行います。

また、本計画における数値目標（KGI※1及びKPI※2、重要指標）については、目標項目を本計画において定めます。

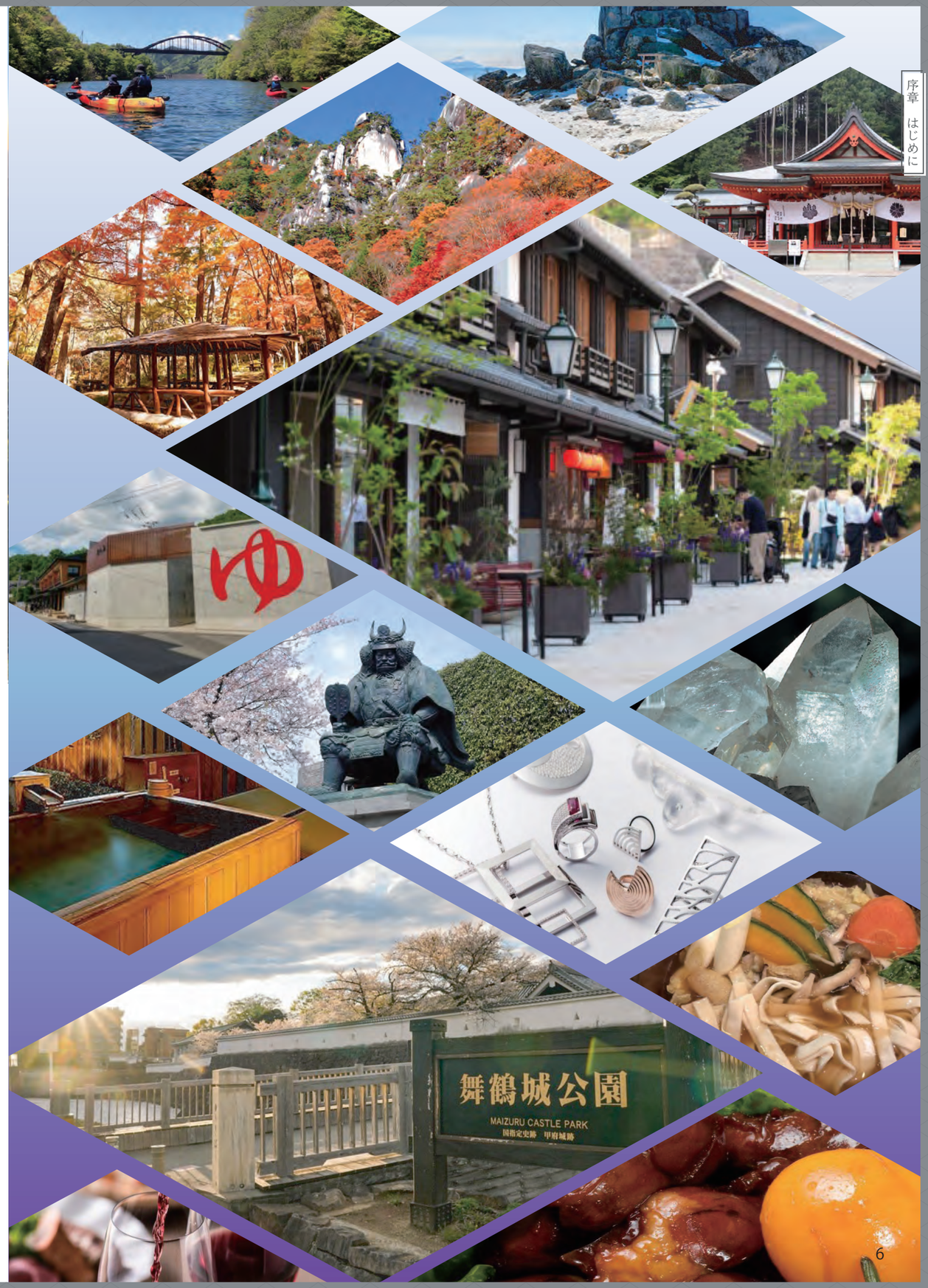
一方、目標数値については、新たな調査によるデータ収集が必要であることや、令和８年度を初年度とする「第５次観光立国推進基本計画」と整合の取れた数値とする必要があることから、令和８年度を目標数値設定に向けた準備期間と位置付け、令和９年度に設定します。

◆計画の期間



※１：KGI (Key Goal Indicator：重要目標達成指標)
甲府市の観光振興において最終的に達成したいゴールを数値で表した指標

※２：KPI (Key Performance Indicator：重要業績評価指標)
最終的な目標 (KGI) 達成に向け事業が順調に進んでいるかを測るための中間目標・数値指標



1

第１章

甲府市の観光を取り巻く状況

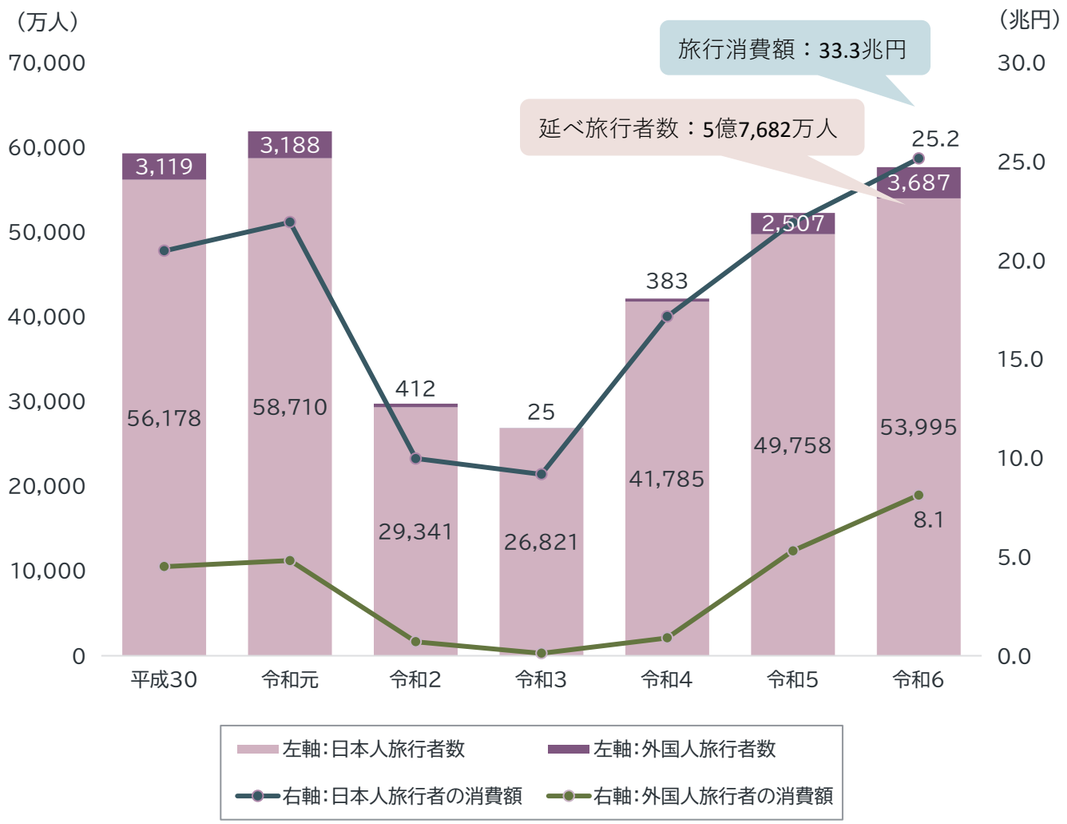
01 | 我が国の観光動向

① 全体

日本人と外国人の旅行者数の推移を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な落ち込みが見られたものの、その後は回復基調にあります。令和6年の延べ旅行者数は5億7,682万人となり、令和元年（新型コロナウイルス感染症拡大前）と比較すると6.8%減少している状況にありますが、旅行消費額は33.3兆円となり、過去最高水準を記録しました。旅行者数については感染症拡大前の水準には及んでいないものの、一人当たりの支出額は増加しており、旅行に対する消費動向の変化がうかがえます。

また、訪日外国人旅行については、令和6年に3,687万人が日本を訪れ、旅行消費額は8.1兆円となり、これまでで最も高い水準となりました。円安や中国を含むアジア市場の回復が追い風となり、インバウンド需要は急速に拡大しています。

図１　旅行者数（日本人・外国人）と旅行消費額の推移



出典：観光庁　旅行・消費動向調査、インバウンド消費動向調査より作成

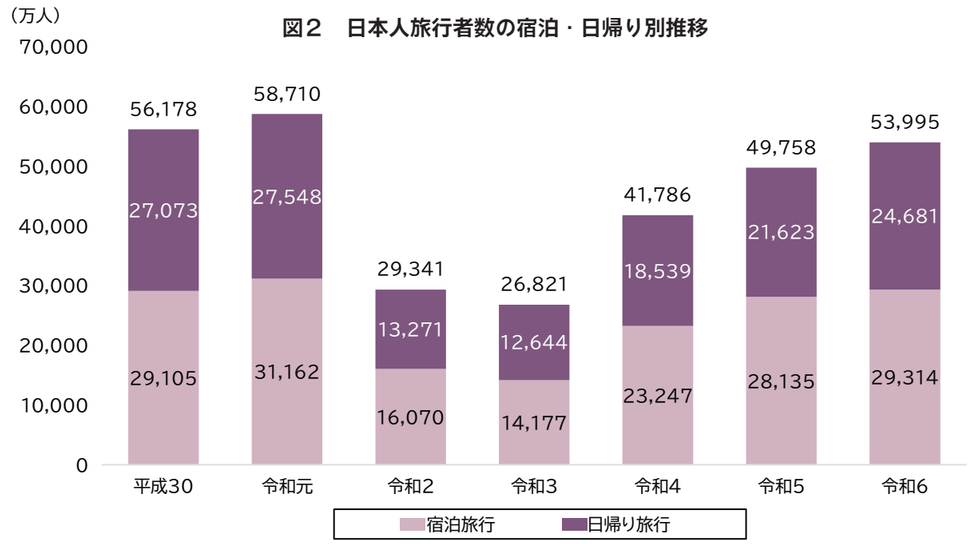
② 日本人旅行者の動向

日本人旅行者数の推移（図2）を見ると、令和6年の延べ旅行者数は5億3,995万人となり、前年から8.5%増加しましたが、令和元年（新型コロナウイルス感染症拡大前）と比較すると依然として8.0%減少しており、宿泊旅行・日帰り旅行ともに回復が進んでいるものの、いずれも感染症拡大前の水準には至っていません。

一方、旅行消費額（図3）は、令和6年に25.2兆円となり、前年に続き大幅に増加し、令和元年と比較しても15.1%増加しました。特に宿泊旅行による消費額の伸びが顕著です。

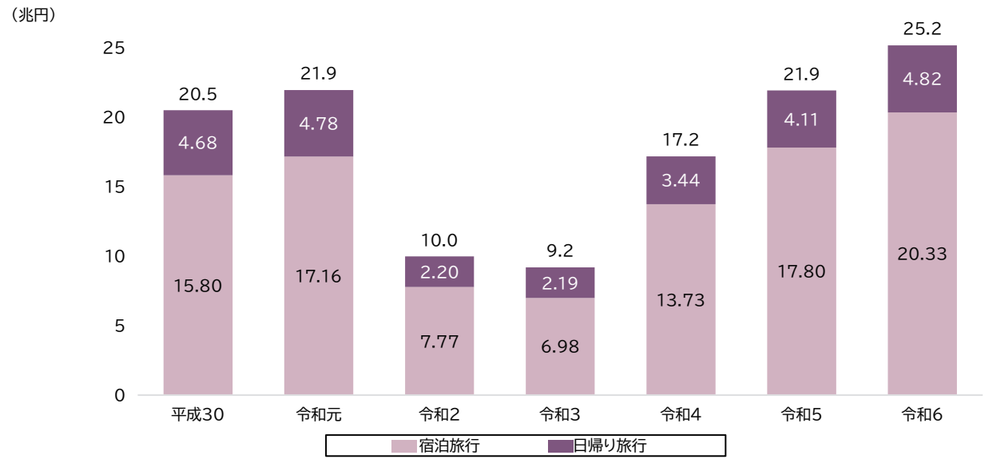
このように、日本人の旅行者数は回復途上にあるものの、旅行の質や消費行動の変化により、観光消費は拡大している状況にあります。

図２　日本人旅行者数の宿泊・日帰り別推移



出典：観光庁　旅行・観光消費動向調査より作成

図３　日本人旅行者の消費額の推移



出典：観光庁　旅行・観光消費動向調査より作成

③ 訪日外国人旅行者の動向

令和6年の訪日外国人旅行者数（図4）は3,687万人、旅行消費額は8.1兆円となり、令和元年を上回って過去最高を記録しました。

この背景には、円安の進行による訪日旅行の価格面での魅力向上があると考えられ、訪日旅行の需要が拡大している状況がうかがえます。

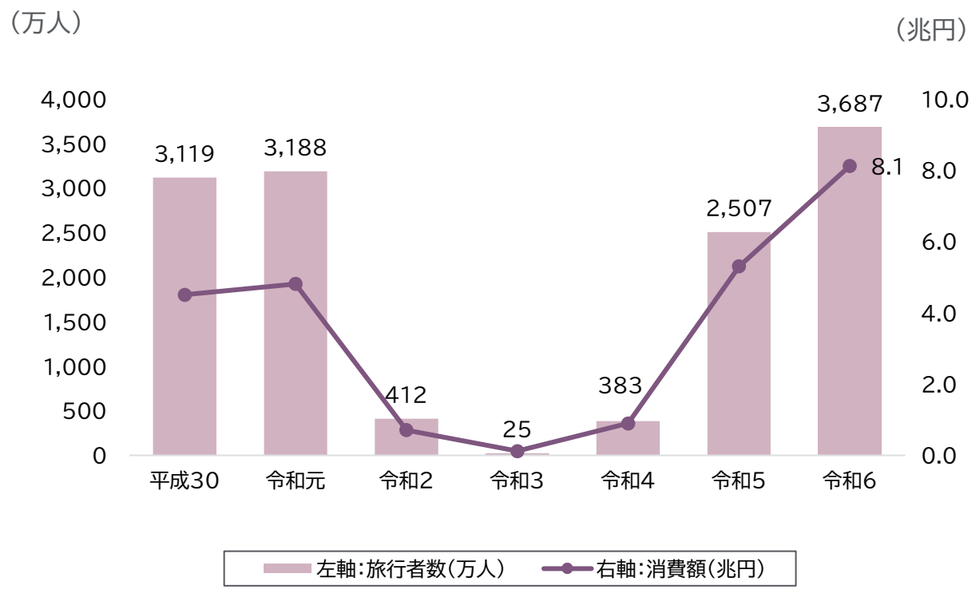
近年、訪日外国人旅行者の観光消費は、日本経済において重要な役割を担うようになっており、観光は今後も成長が期待される分野として位置付けられます。

訪日外国人旅行者の国籍別内訳（図5）を見ると、令和6年には、韓国からの訪問者が881.8万人と最も多く、全体の23.9%を占めています。次いで、中国が698.1万人（18.9%）、台湾が604.4万人（16.4%）と続いており、これら上位3つの国・地域で訪日外国人旅行者全体の過半を占めています。

また、訪日外国人旅行者の8 割以上はアジアからの来訪者であり、インバウンド需要はアジア市場を中心に構成されています。

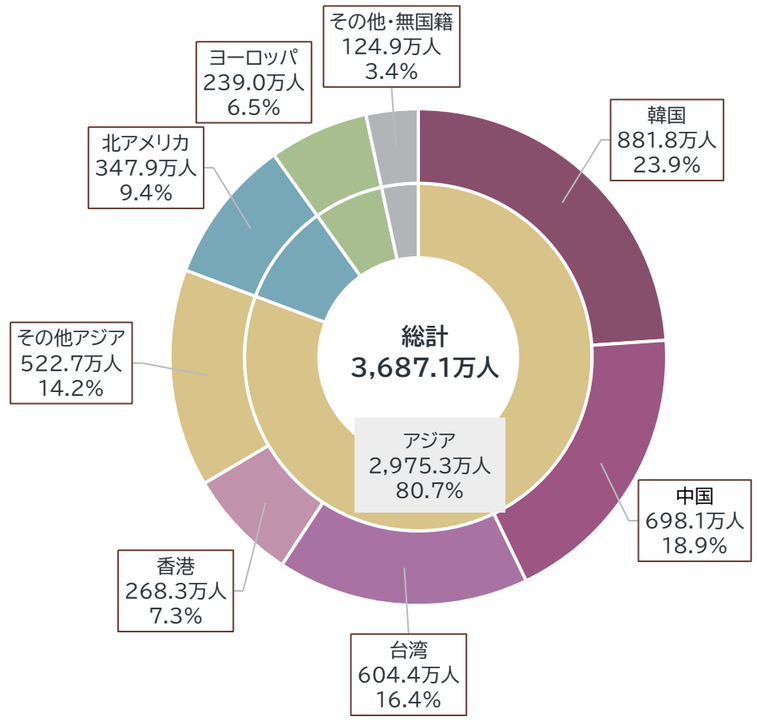
こうした状況から、訪日外国人旅行においては、引き続きアジア市場が重要な位置を占めていることがうかがえます。

図４　訪日外国人旅行者数と消費額の推移



出典：観光庁　インバウンド消費動向調査より作成

図５　訪日外国人旅行者の国籍別内訳（令和６年）



出典：日本政府観光局（JNTO）　訪日外客統計より作成

■小江戸甲府花小路

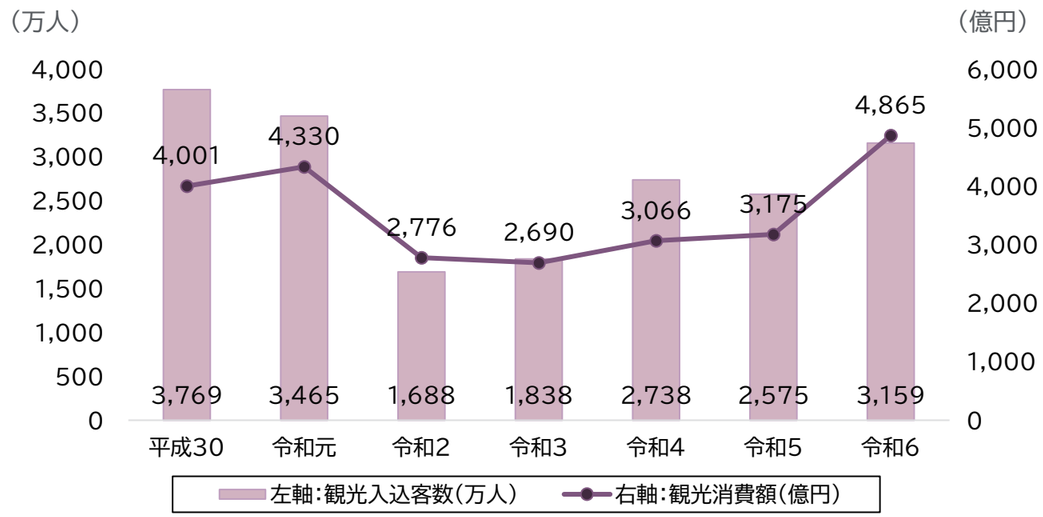
02 | 山梨県の観光動向

① 観光入込客数と観光消費額の推移

山梨県の観光入込客数の推移を見ると、平成30年に3,769万人と過去最高を記録しました。その後、令和2年から令和3年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込みました。令和4年以降は回復基調に転じていますが、依然として新型コロナウイルス感染症前の水準には達していません。

一方で、観光消費額については令和6年に4,865億円となり、過去最高を更新しました。

図6　観光入込客数と観光消費額の推移（延べ人数）



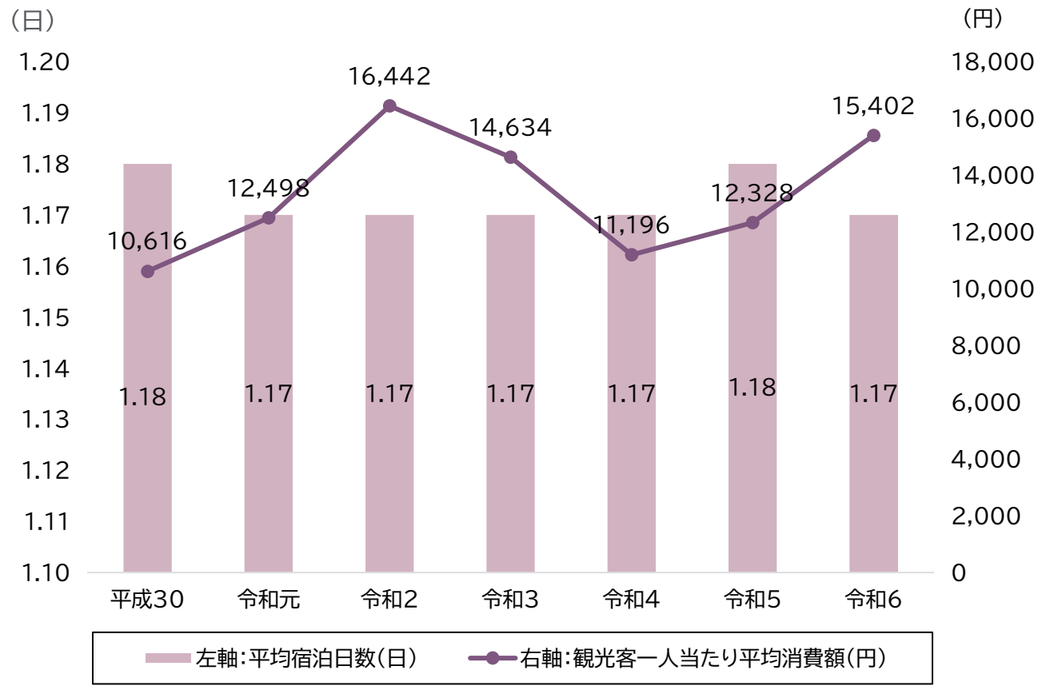
出典：山梨県観光入込客統計調査より作成

② 観光客の平均宿泊日数と一人当たりの消費額の推移

山梨県の観光客の平均宿泊日数は、全期間を通じて1.17日から1.18日で推移しており、大きな変化は見られません。

一方、一人当たりの消費額は、新型コロナウイルス感染症下での宿泊支援のキャンペーン等の影響による変化があったものの、直近2年間は増加傾向にあり、令和6年には15,402円に達しています。

図7　観光客の平均宿泊日数と一人当たりの消費額の推移



出典：観光庁宿泊旅行統計調査、山梨県観光入込客統計調査より作成

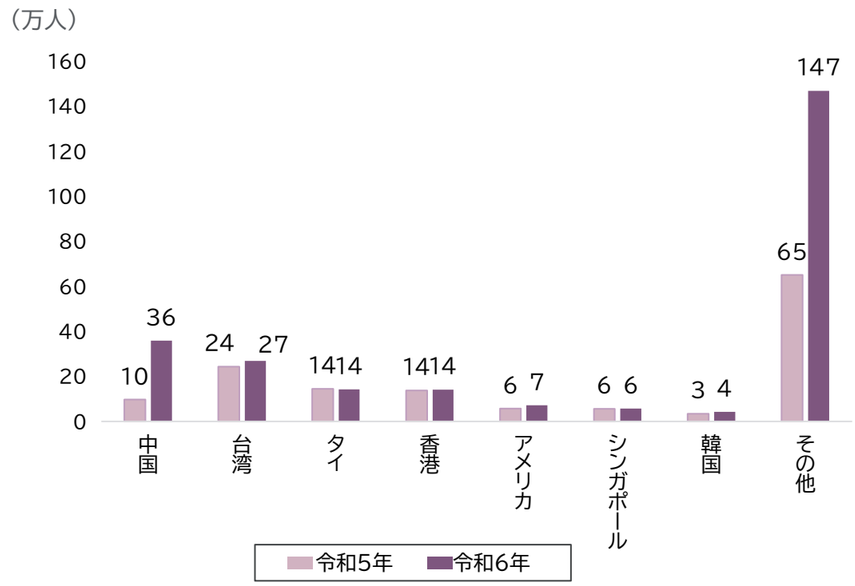
③ 国・地域別の訪日外国人宿泊者数

国・地域別の訪日外国人宿泊者数（図８）を見ると、中国とその他の地域の宿泊者数が大きく増加しており、全体の宿泊者数を押し上げています。

一方、それ以外の国・地域はほぼ前年と変わらないことから、回復状況に差が生じています。

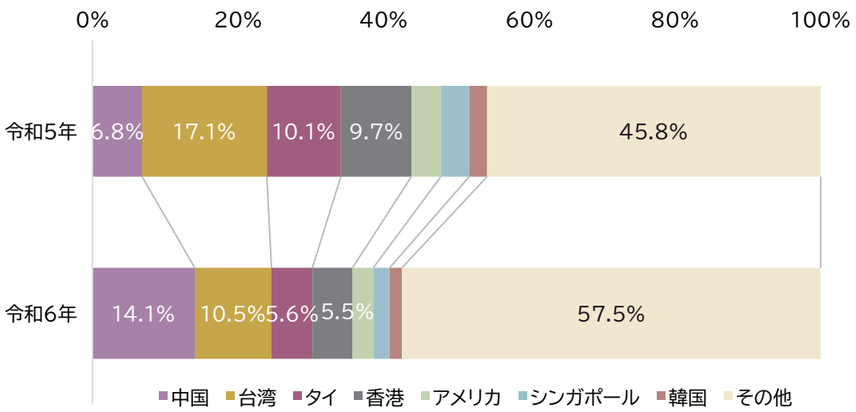
国・地域別の構成比（図９）を見ても中国とその他の割合が増加しており、インバウンド回復を牽引している状況です。

図８　国・地域別の訪日外国人宿泊者数（延べ人数）



出典：観光庁　宿泊旅行統計調査、山梨県観光入込客統計調査より作成

図９　訪日外国人宿泊者の国・地域別構成比



出典：観光庁　宿泊旅行統計調査、山梨県観光入込客統計調査より作成
（地域別構成比（%）＝（国別宿泊者数 ÷ 延べ宿泊者数）×100 にて算出）

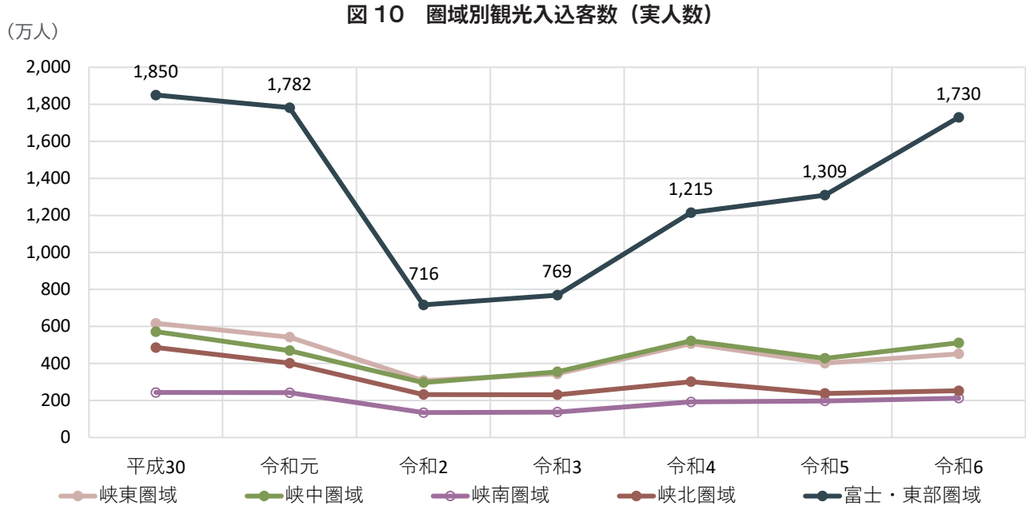
④ 圏域別の観光入込客数

山梨県内の圏域別の観光入込客数を見ると、富士・東部圏域が最も多く、県内観光を牽引している地域であることが分かります。平成30年には1,800万人台と高い水準に達しました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年から令和3年にかけて大きく減少しましたが、令和6年には再び1,700万人台まで段階的に回復しています。

また、その他の圏域は、いずれも200万人台から500万人台で推移しています。

このように、県全体の観光入込客数は富士・東部圏域の動きに大きく左右されている状況です。

図 10　圏域別観光入込客数（実人数）



出典：山梨県観光入込客統計調査より作成

■山梨県の圏域分類

県内を以下の地図に示すように、5つの圏域（峡中、峡東、峡南、峡北、富士・東部）に分類しています。本市がある峡中圏域は、他、甲斐市、昭和町、中央市、南アルプス市が属します。

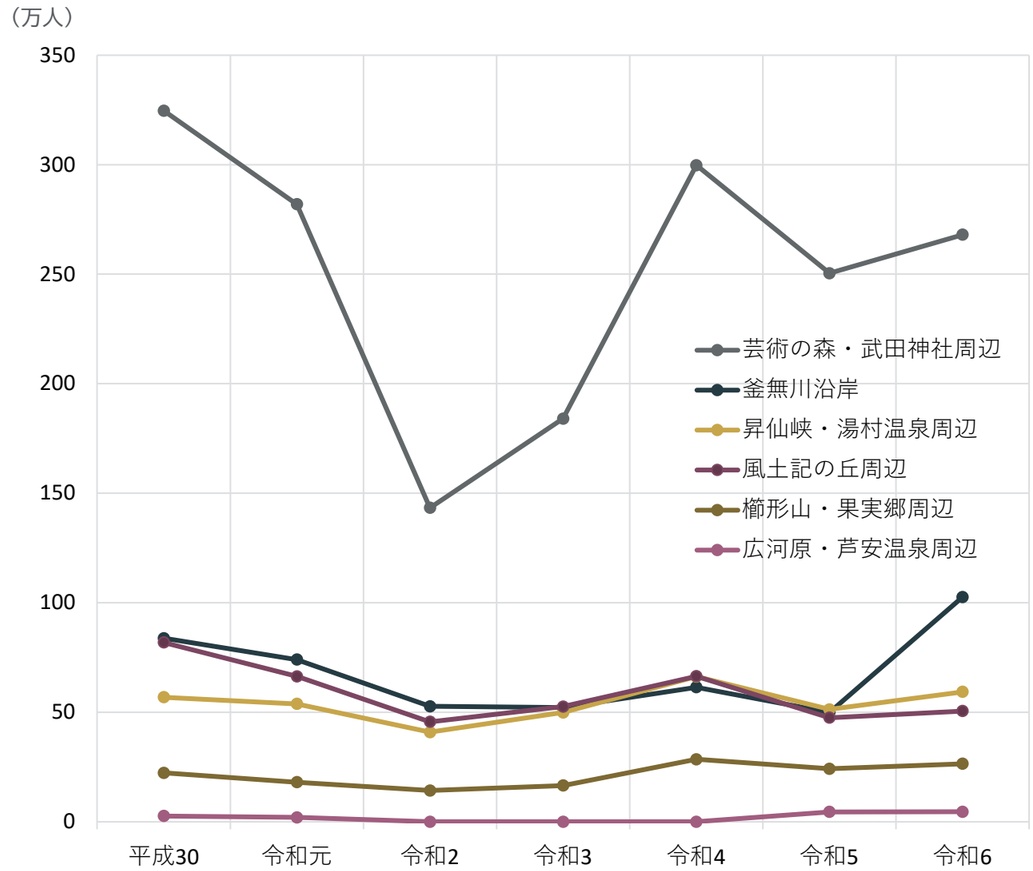
⑤ 峡中圏域の観光地別入込客数

峡中圏域の観光地別に入込客数の推移を見ると、「芸術の森・武田神社周辺」は、全期間を通じて来訪者数が最も多いエリアです。令和2年から令和3年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込みました。令和4年以降は回復基調に転じていますが、依然として新型コロナウイルス感染症前の水準には達していません。

「昇仙峡・湯村温泉周辺」および「風土記の丘周辺」は50万人前後で推移し、「釜無川沿岸」は令和6年に大きく入込客数を増やしています。

このように、エリアによって回復状況や年ごとの変動に差が見られますが、全体として回復が進んでいます。

図 11　峡中圏域の観光地別入込客数（実人数）



出典：山梨県観光入込客統計調査より作成

※芸術の森・武田神社周辺：芸術の森・武田神社の他、甲府駅周辺や、小瀬スポーツ公園等を含む

2

第２章

甲府市の観光の近況

01 | 甲府市の地域資源とエリア別の整理

（1）甲府市の地域資源

① まちの近くにある山と自然

本市は、南に富士山、北に八ヶ岳、西に南アルプスと、周囲を美しい山々に囲まれた盆地で、市街地に近接する森林・低山や、渓谷美の御嶽昇仙峡、2500m級の金峰山など、初心者から本格登山者まで楽しめる山々がまちの近くにあります。

また、「信玄の湯 湯村温泉」をはじめとした良質な温泉資源があり、市民だけでなく、山歩きを楽しむ人々の心と体を癒しています。

② 甲府ジュエリーと伝統工芸

本市は、企画・デザインから原料調達、宝石の研磨・彫刻、貴金属加工、流通まで、ジュエリーづくりの全工程が一つのまちにそろう、世界的にも珍しい集積産地で、ジュエリーを購入できるだけでなく、工房見学や研磨体験などもできます。

また、鹿革に漆で模様を付けた甲州印伝をはじめ、甲州水晶貴石細工や甲州手彫印章など熟練の職人が手がけた伝統工芸品に触れることができます。

③ 地域に根付いた食文化

本市は、日本ワイン発祥の地と言われており、歴史あるワイナリーで見学や試飲を楽しむことができます。また、武田信玄の陣中食であったと伝えられるほうとうをはじめ、ご当地グルメで有名な甲府鳥もつ煮などの郷土料理もあり、日々の生活や歴史と深く結びついた多様な食文化が楽しめます。

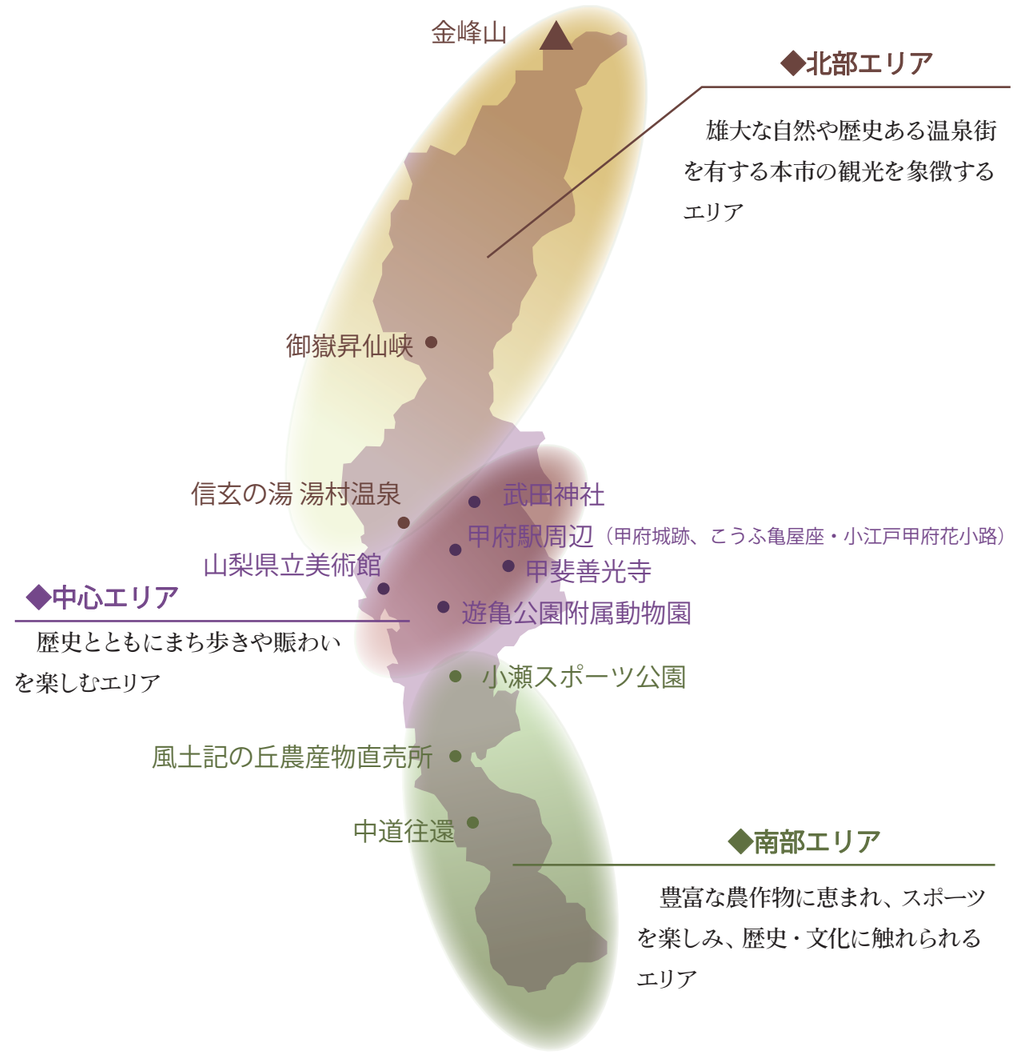
④ 美味しい農産物・収穫体験

盆地特有の気候条件と長年培われた栽培技術を背景に、高品質な果実や農作物が生産されています。特産品であるぶどう、もも、すもも、なす、スイートコーン、いちごをはじめ、生産する様々な野菜や加工品などは地域の直売所で購入でき、また農産物を活かした収穫体験も楽しめます。

（2）エリア別の地域資源の整理

本市は、四方を山々に囲まれた甲府盆地の中心に位置し、北には御嶽昇仙峡を擁する秩父山地（甲武信ユネスコエコパーク※3）、東・南には御坂山地から富士山方面へと連なる山なみ、西には南アルプスの前衛の山が広がるなど、「山の都」として特徴的な地形環境を有しています。

本計画では、南北に細長いという本市ならではの地形を観光振興に活かすため、市域を「北部エリア」「中心エリア」「南部エリア」に区分し、それぞれが有する地域資源の特徴と魅力を整理します。



※3：甲武信ユネスコエコパーク
ユネスコにより国際的に認定された生物圏保存地域として、生態系の保全と持続可能な利活用の調査を目的とする取組が行われる甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山に挙げられる山々が連なる奥秩父主稜を中心とした、荒川、多摩川、富士川（笛吹川）、信濃川（千曲川）源流部及びその周辺を含む一都三県にまたがるエリア

北部エリア

雄大な自然や歴史ある温泉街を有する本市の観光を象徴するエリア

■御嶽昇仙峡の覚円峰

北部エリアは、国の特別名勝・日本遺産に認定されている「御嶽昇仙峡」を中心に、本市を代表する自然豊かなエリアです。奇岩や渓谷、奥秩父の山なみなど、迫力ある景観が訪れる人を魅了します。

また、古くから山岳信仰や巡礼の道として親しまれてきた古道などの歴史を有し、自然と信仰が結びついた文化が今も受け継がれています。水晶を起源とした宝飾文化をはじめ、森林や渓谷を活かした散策やアクティビティといった体験型の観光など、多様な魅力が重なっています。

さらに、本市唯一の温泉街である「信玄の湯 湯村温泉」を擁し、豊かな自然を満喫した後に温泉街で滞在できる環境が整っています。近年は民間事業者による再開発事業も進んでおり、滞在型観光の拠点として、今後さらなる魅力の向上が期待されます。

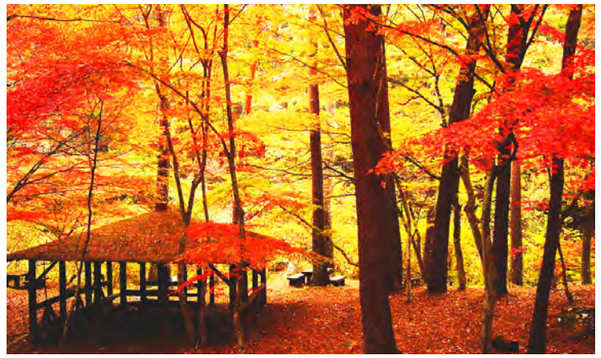
主な観光資源

- 御嶽昇仙峡
- 信玄の湯 湯村温泉
- 金峰山
- 金櫻神社
- 緑が丘スポーツ公園

① 御嶽昇仙峡

御嶽昇仙峡は、本市の最北部、荒川上流に広がる日本有数の渓谷で、長い年月をかけて花崗岩と清流が織りなした断崖、奇岩、滝が連なる雄大な自然景観を有しています。その優れた景観価値から、国の文化財保護制度において極めて評価の高い「特別名勝」に指定されており、日本を代表する景勝地の一つに位置付けられています。さらに、昇仙峡を中心に展開してきた水晶産出と信仰、技術、産業の歴史は、「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～」というストーリーとして日本遺産に認定され、自然と人の営みが重なり合う文化的価値も高く評価されています。

渓谷は四季折々の表情が魅力で、春から初夏にかけては新緑が清流と岩肌を彩り、秋には紅葉が渓谷全体を染め上げ、多くの来訪者を魅了します。渓谷奥には修験道や山岳信仰の霊山である金峰山がそびえ、その信仰の拠点として金櫻神社が鎮座し、古くから水晶や山の神への信仰が受け継がれてきました。昇仙峡を代表する見どころである仙娥滝は、高さ約30メートルを誇る豪快な滝で、四季や天候によって異なる表情を見せ、奇岩群とともに渓谷美を象徴する存在です。また、この地域ではかつて水晶が盛んに産出され、磨きや加工の高度な技術が育まれ、それが現在の甲府を中心とした宝飾産業という地場産業へと発展してきました。こうした歴史と自然を立体的に楽しめる施設として昇仙峡ロープウェイがあり、山頂展望台からは渓谷や南アルプス、条件が良ければ富士山まで見渡すことができます。近年は、渓谷沿いに地元食材を生かしたカフェや飲食店、クラフトや宝飾に触れられる新しい店舗も増え、自然景観だけでなく、滞在型で楽しめる観光地としての魅力も高まっています。



■御嶽昇仙峡の紅葉

■昇仙峡ロープウェイ

■仙娥滝

■金峰山

② 信玄の湯 湯村温泉

「信玄の湯 湯村温泉」は、弘法大師（空海）が杖で地を突いて湧出させたと伝わる開湯伝説に始まり、1200年以上の歴史を有する本市を代表する温泉街で、泉質はアルカリ性単純温泉を中心に、神経痛や筋肉痛、疲労回復、冷え性などに効果があるとされ、古くから人々が心身を癒やし、湯に浸かりながら語らい、交流する場として親しまれてきました。戦国時代には武田信玄公が合戦の傷を癒やした「隠し湯」とも伝えられ、武将の湯治文化とも深く結びついています。

また、近代以降は多くの文豪に愛され、太宰治が療養・滞在し作品の構想を練った地として知られるほか、周辺には文学碑や記念館、寺社など、温泉とともに育まれてきた歴史・文化資源が点在しています。

湯村温泉の周辺には、緑豊かな湯村山や公園、スポーツ施設なども整い、温泉でくつろぐだけでなく、散策、スポーツ、文化施設の見学など、多様な過ごし方ができる点も魅力です。

近年では民間事業者を中心に宿泊施設や飲食店、交流拠点のリニューアルや再編といった再開発が進められており、これにより景観や回遊性の向上、滞在しやすい受入環境の整備が進むことで、若い世代や観光客の新たな来訪を促し、温泉街における賑わい創出や滞在時間の延伸、ひいては地域経済や交流の活性化につながることが期待されています。

■数々の伝説が受け継がれる温泉街

■良質な温泉

■湯村山ののろし台

③ 帯那地域

帯那地域は、市街地から近く、甲府盆地を見渡せる山々が広がるエリアです。千代田湖での釣りや、和田峠・八王子山からの展望、創作の森おびなでのキャンプ、全国から根強いファンが参加するトレイルランニングや武田の杜の森林セラピー、和田峠からの夜景など、自然を身近に楽しめる環境が整っています。

市街地からのアクセスが良く、散策やハイキング、展望を気軽に楽しむことができ、自然を感じながら、本市の風景に触れられる点も特徴です。

このように本地域は、市街地のすぐそばで自然と眺望、アウトドア体験を楽しめる「市街地周辺の憩いの場」として位置付けられます。

■武田の杜トレイルランニングレース

■夜の小江戸甲府花小路

中心エリアは、甲府駅を中心に城跡や商店街、公共施設などが集積し、歴史的な空間と現代の暮らしが重なり合う本市の中心となるエリアです。

武田氏ゆかりの史跡や城下町の面影を残すまちなみを背景に、博物館や文化施設、商店・飲食店があり、日常の生活と歴史・文化が身近に感じられます。

近年は公民が連携し、まちなかで居心地のいい場所をつくる取組などが進められており、来訪者と市民が共に過ごせる場としての魅力も高まっています。

このように中心エリアは、本市の歴史を土台としながら、暮らし・交流・賑わいが展開される都市観光の拠点として位置付けられます。

主な観光資源

武田神社・信玄ミュージアム	甲斐善光寺
甲州夢小路	かいてらす（山梨県地場産業センター）
舞鶴城公園（甲府城跡）	山梨県立美術館
こうふ亀屋座・小江戸甲府花小路	遊亀公園附属動物園
山梨ジュエリーミュージアム	
印傳博物館	

① 武田氏ゆかりの地

武田氏館跡や城跡、寺社など、本市の成り立ちを今に伝える史跡が集積します。戦国時代には政治・軍事の拠点として機能し、城下町甲府の基盤が形成されてきました。

現在、史跡武田氏館跡周辺の復元整備が進められているほか、武田神社に隣接する信玄ミュージアムでは武田家の歴史を学び、体感することができます。

■武田神社

② 駅周辺・まちなか

国指定の史跡である舞鶴城公園（甲府城跡）や世界に誇る甲府ジュエリーの魅力を紹介する山梨ジュエリーミュージアム、城下町の雰囲気を感じることができる飲食店等が立ち並ぶ甲州夢小路や小江戸甲府花小路、昔甲府に実在した芝居小屋をイメージしたこうふ亀屋座、地元色豊かな飲食店が集まる甲府ぐるめ横丁やちょうちん横丁といったスポットにより、飲食や買い物、まち歩きを楽しむことができます。

■こうふ亀屋座

■舞鶴城公園（甲府城跡）

③ 山梨県立美術館・甲斐善光寺など

このほかにも本エリアには、ミレーの美術館として親しまれている山梨県立美術館や、令和9年に御開帳を迎える甲斐善光寺、子どもの遊び場として人気の愛宕山こどもの国、令和9年度にリニューアルオープンを予定している遊亀公園附属動物園などがあり、芸術・歴史に触れる体験や家族でのレジャーなど、目的に応じた多様な過ごし方ができます。

■山梨県立美術館（芸術の森公園）

■甲斐善光寺

南部エリア

豊富な農作物に恵まれ、スポーツを楽しみ、歴史・文化に触れられるエリア

■小瀬スポーツ公園

南部エリアは、肥沃な土壌環境や全国有数の恵まれた日照時間により、小曲のイチゴや中道のスイートコーンなど高品質な果樹や野菜が栽培され、直売所での購入や収穫体験も楽しめます。

また、エリア内にある小瀬スポーツ公園には、プロサッカーチーム「ヴァンフォーレ甲府」のホームスタジアムに加え、多種多様な競技に対応できる多くの施設が整っていることから、年間を通じて県内外から多くのアスリートやサポーターが来訪しています。その他にも、週末には多くのイベント等に人が集まり、家族の憩いの場にもなっています。

さらに、中道地域の曽根丘陵には東日本最大級の古墳と、江戸時代に静岡からの海産物を運んだ重要な古道である中道往還があります。

今後は、リニア山梨県駅（仮称）の開業により、人の流れの拡大が期待されることから、当エリアが新たな観光のハブとして必要な機能を備えるよう検討を進めます。

主な観光資源

- 高品質な農産物・観光果樹園
- 風土記の丘農産物直売所
- 小瀬スポーツ公園
- 曽根丘陵公園
- 山梨県立考古博物館
- 中道往還

02 | 前計画における取組の振り返り

令和2年度に策定した第3次甲府市観光振興基本計画（以下「前計画」という。）では、5つの基本方針のもと、22の施策に取り組んできました。

本計画の策定に当たり、施策ごとの庁内での達成度の評価や市内の観光関連事業者（以下「事業者」という）の評価による満足度、数値目標の達成状況等を踏まえ、前計画の取組の進捗を振り返ります。

（1）前計画の実施状況の評価

庁内での施策ごとの達成度を定性的に評価するとともに、事業者評価により施策ごとの満足度を把握した結果（図12）、庁内評価は概ね3.0前後で「達成できている」が、「施策⑫ Withコロナを踏まえた観光地づくりの推進」は低い評価となりました。また、事業者の満足度は2.0 ～ 2.8程度と、庁内評価を下回る傾向が見られました。

これは、施策自体は一定の進展があったものの、その内容や効果が事業者に十分共有されず、事業効果の実感につながっていなかったことが一因と考えられます。

特に、二次交通、インバウンド対応、情報発信の分野では評価の差が大きく、施策の狙いや成果が十分伝わっていない状況がうかがえます。

一方、歴史・文化資源や地域資源を活用した施策については、庁内評価と事業者評価が比較的近く、施策の方向性に一定の共通認識が形成されていたと捉えられます。

今後は事業者の視点をより重視し、施策の目的や効果を分かりやすく共有するとともに、成果を実感できる形での施策展開を進めていくことが重要です。

図12　前計画における施策の達成度及び満足度評価

基本方針	施策	達成度の評価（庁内）	満足度の評価（事業者）
魅力ある観光地づくりの推進	① 湯村温泉郷の活性化に向けた取組	3.0	2.2
	② 昇仙峡の周遊観光の促進	3.0	2.3
	③ 甲府城跡周辺の受入環境の整備	3.0	2.8
	④ 信玄公生誕500年関連事業の推進	3.0	2.8
	⑤ 観光コンテンツの造成	3.0	2.5
	⑥ 都市観光の推進	2.9	2.4
自然・歴史など地域資源の活用	⑦ 日本遺産を活用した昇仙峡地域の活性化への取組	3.0	2.8
	⑧ 甲府名山や甲武信ユネスコエコパークの活用	3.0	2.1
	⑨ 武田氏の歴史を活用した観光推進	3.0	2.7
	⑩ 地域資源の活用	2.9	2.6
	⑪ 地場産品等を活用した誘客と消費の促進	2.8	2.7
安全・安心で快適な観光地づくりの推進	⑫ Withコロナを踏まえた観光地づくりの推進	1.7	2.4
	⑬ 観光客のおもてなしの推進	3.0	2.6
	⑭ 二次交通の利用促進と新たな交通手段などの研究	2.7	2.1
	⑮ インバウンド推進に向けた取組とユニバーサルツーリズムの推進	2.9	2.0
	⑯ 観光関連施設の維持管理	2.8	2.0
効果的な情報発信	⑰ ターゲットに合わせた積極的・効果的な情報発信	3.0	2.4
	⑱ 多言語での情報発信	3.0	2.3
	⑲ フィルムコミッションの活用	3.0	2.2
観光推進体制の強化	⑳ 観光関連団体及び事業者等との連携強化	2.7	2.6
	㉑ 産学官の連携強化	3.0	2.6
	㉒ 広域連携の推進	3.0	2.4

※点数は平均値

庁内での達成度の評価		事業者による満足度	
達成度／点	評価の基準	満足度／点	評価の基準
5	120%（予想を大幅に上回って達成）	5	満足
4	100～120%未満（目標を上回って達成）	4	やや満足
3	80～100%未満（目標通り達成）	3	普通
2	0～80%未満（目標の一部が未達成）	2	やや不満
1	0%（未達成・未着手）	1	不満
0	0%（評価不可）	0	わからない

（2）数値目標の評価

前計画では、①観光入込客数、②日本人宿泊者、③外国人宿泊者、④観光消費額を数値目標として定めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、前計画の策定時においては目標項目のみを設定していました。

その後、感染症の収束を期に、コロナ禍前の令和元年を基準年として（観光消費額を除く）、令和5年度に目標値を定めました。

①　観光入込客数

観光入込客数は、令和2年に新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少し、令和元年比で45.0%の減少となりました。その後は回復基調に転じ、令和3年には緩やかな増加が見られ、令和4年以降は回復が一層進展しました。

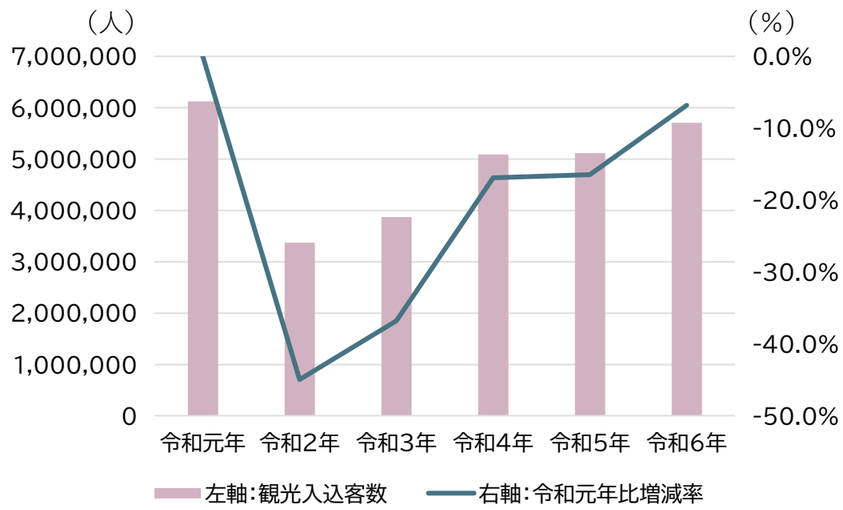
令和6年では観光入込客数は5,706,302人となり、目標値に対する達成度は93.2%に達しています。これは、コロナ禍以前の水準まであと一歩の水準であり、観光需要が着実に回復していることを示しています。

↓基準年

年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度（%）	―	55.0	63.2	83.1	83.6	93.2
観光入込客数（人）	6,121,992	3,369,368	3,870,939	5,089,053	5,115,733	5,706,302
令和元年比増減率（%）	―	-45.0	-36.8	-16.9	-16.4	-6.8

◆観光入込客数の目標値：6,121,992人（令和元年同数値）

図 13　本市の観光入込客数



出典：市提供資料

②　日本人宿泊者数

日本人宿泊者数は令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向が続き、令和3年及び令和4年においても回復は限定的なものとなりました。令和5年には一定の持ち直しが見られたものの、令和元年の水準には依然として及ばない状況が続いています。

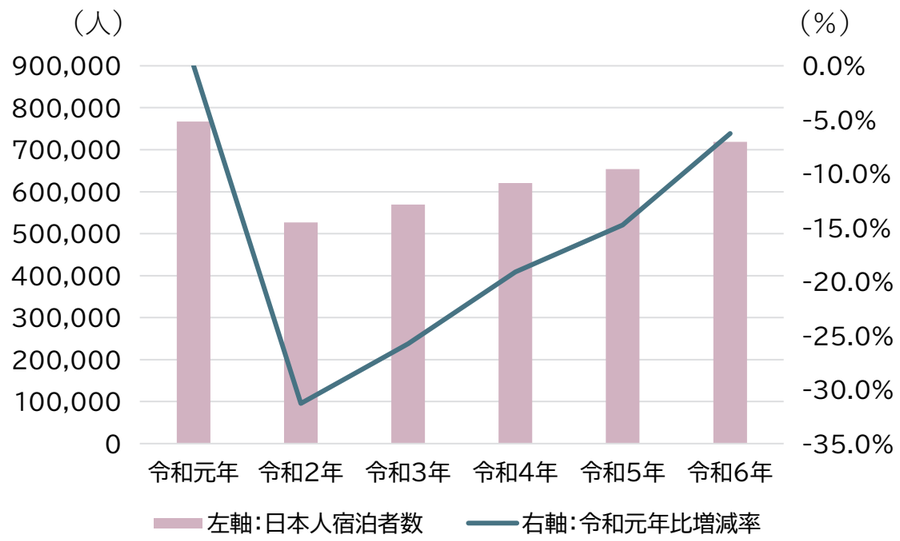
令和6年における日本人宿泊者数は718,973人となり、令和元年比では6.3%の減少となりましたが、減少幅は年々縮小しており、回復基調にあることが確認されます。また、目標値に対する達成度は89.3%となり、概ね計画水準に近い水準まで回復しています。

↓基準年

年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度（%）	―	65.4	70.7	77.1	81.2	89.3
日本人宿泊者数（人）	767,034	527,023	569,530	620,604	653,910	718,973
令和元年比増減率（%）	―	-31.3	-25.7	-19.1	-14.5	-6.3

◆日本人宿泊者数の目標値：805,386人（令和元年比105%）

図 14　本市の日本人宿泊者数



出典：市提供資料

③　外国人宿泊者数

外国人宿泊者数は令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や水際対策の影響を受け、大幅に減少しました。特に令和3年には令和元年比で97.8%の減少となり、極めて厳しい状況となりました。

その後、入国制限の緩和や国際的な人の往来の再開に伴い、令和4年以降は回復基調に転じ、令和5年には15,475人、令和6年には24,658人まで回復しています。しかしながら、令和6年においても令和元年実績（57,139人）と比較すると56.8%の減少となっており、依然としてコロナ禍前の水準には達していません。

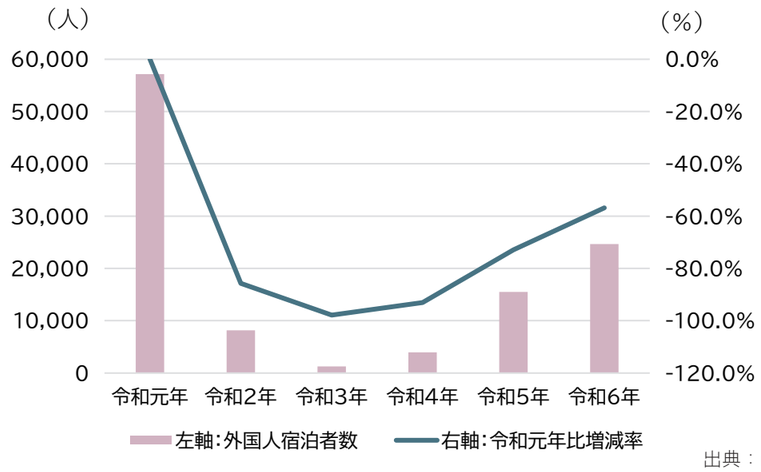
また、目標値に対する達成度は令和6年で39.2%にとどまっており、外国人宿泊者数の回復に向けた取組が必要となっています。

↓基準年

年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度（%）	－	13.0	2.0	6.3	24.6	39.2
外国人宿泊者数（人）	57,139	8,163	1,238	3,958	15,475	24,658
令和元年比増減率（%）	－	-85.7	-97.8	-93.1	-79.2	-56.8

◆外国人宿泊者数の目標値：62,853人（令和元年比110%）

図 15　本市の外国人宿泊者数



出典：市提供資料

④　観光消費額

年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度（%）	69.3	68.0
観光消費額（円）	8,758	8,585

◆観光消費額の目標値：12,633円

令和6年の観光客一人当たりの消費額は8,585円で、目標値に対する達成度は68.0%になっており、観光入込客数の回復が進む中で、滞在時間の延伸や宿泊旅行の割合を増やすなど、消費単価の向上を図ることが必要です。

03｜データでみる甲府市の現状

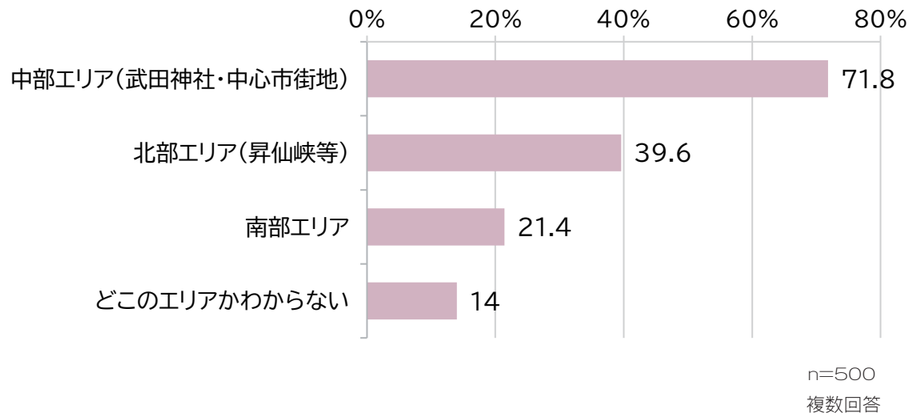
（1）観光客アンケート調査

本市の観光の現況を把握するため、来訪者・非来訪者に対し、アンケート調査を実施しました。結果の概要は次の通りです。

①　エリアごとの来訪者の割合

「中心エリア（武田神社・中心市街地）」を訪問した人が71.8%で最も多く、次いで「北部エリア（昇仙峡等）」となっています。

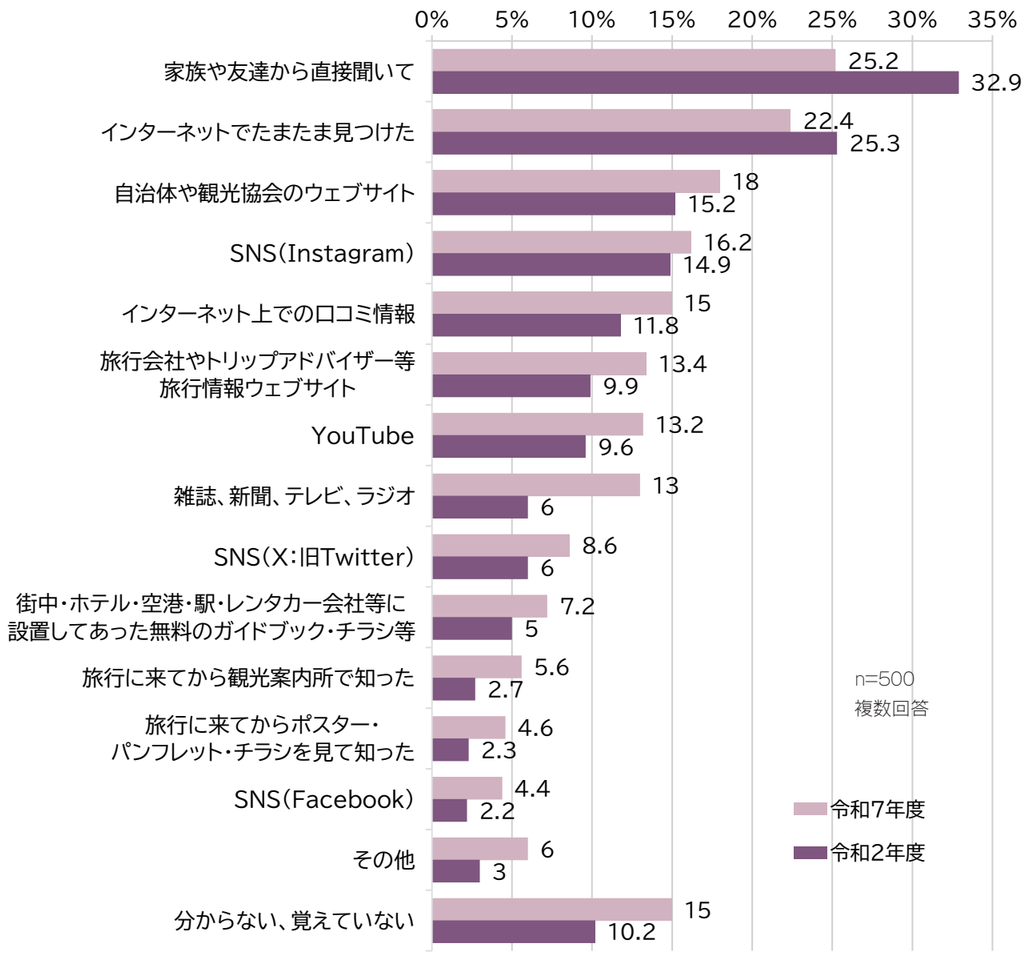
図 16　エリアごとの来訪者の割合



②　旅行時の情報入手方法（来訪者）

甲府に来た事がある人の情報入手方法は、「家族や友達から直接聞いて」が25.2%で最も多く、次いで「インターネットでたまたま見つけた」が22.4%と多くなっています。前計画策定時（令和２年度）における調査と比較すると、ウェブサイトやSNS 、口コミなどで情報を得て来訪する人の割合が増えています。

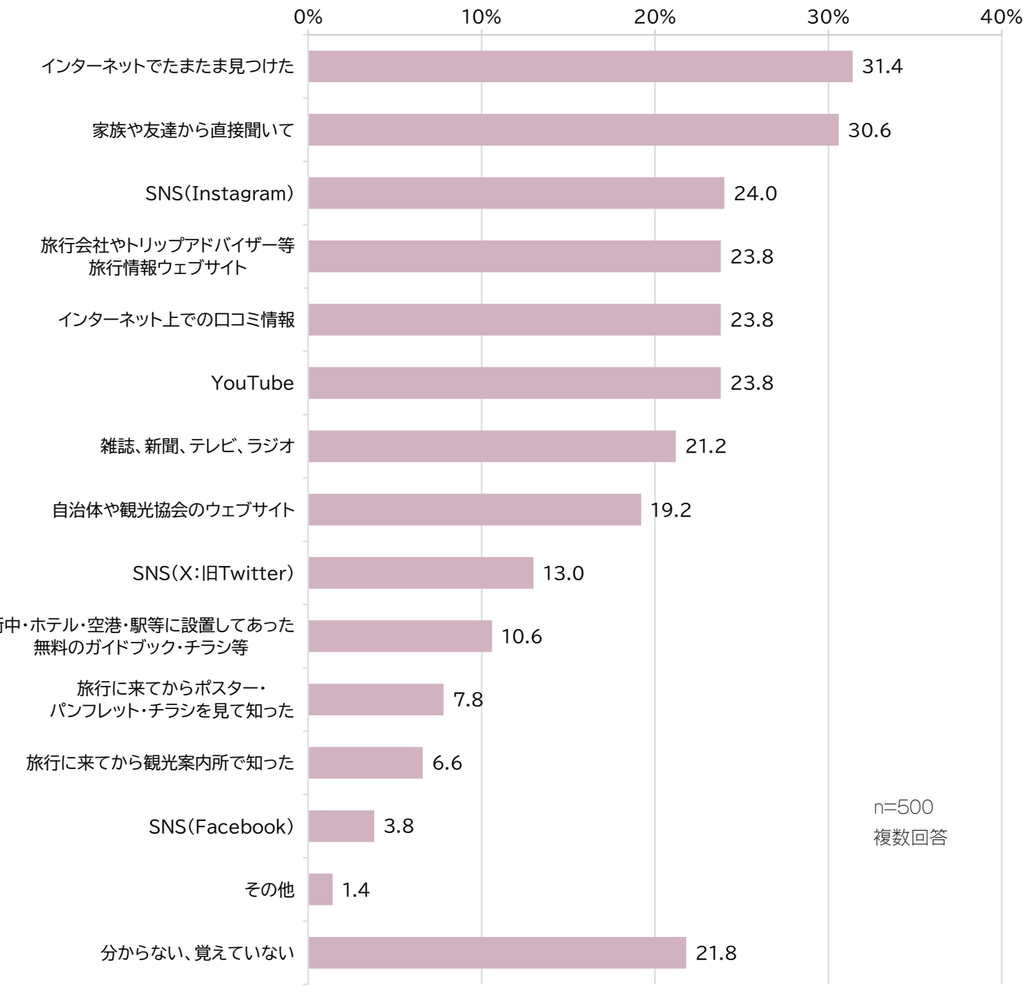
図 17　旅行時の情報入手方法



③　旅行時の情報入手方法（非来訪者）

今まで甲府に来たことがない人の旅行時の情報入手方法は、「インターネットでたまたま見つけた」が31.4%で最も多く、次いで「家族や友達から直接聞いて」が30.6%と多くなっています。

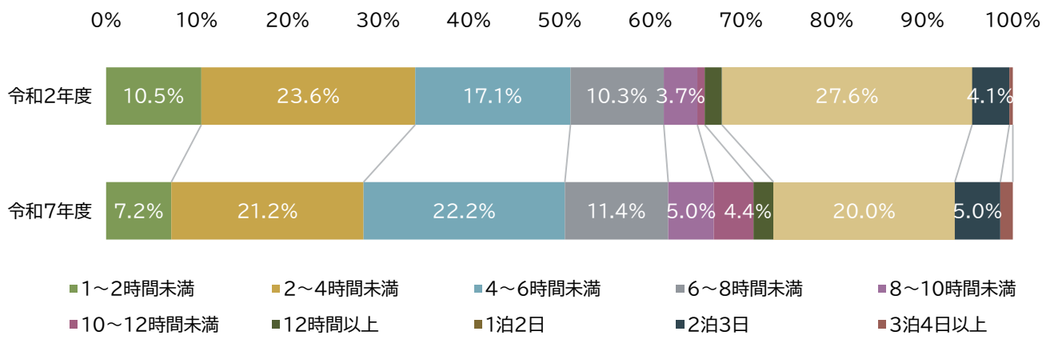
図 18　旅行時の情報入手方法



④　甲府を旅行した際の滞在時間（来訪者）

6時間未満の滞在が半数を占めており、宿泊を伴う旅行は全体の26.4%で、日帰り旅行の傾向が強くなっています。前計画策定時（令和2年度）と比較すると、宿泊を伴う旅行の割合が減り、半日から1日程度滞在する割合が増えています。

図 19　甲府を旅行した際の滞在時間



n=500

⑤　旅行一回に使った消費額（来訪者・非来訪者）

本市来訪者は「1万円未満」「1万円～3万円」の割合が共に4割を占めており、平均で1.8万円なのに対して、非来訪者は「1万円～3万円」「3万円～5万円」の割合が共に3割を超えており、平均で3.3万円となっています。本市来訪者の消費金額が非来訪者と比べ少ないのは、宿泊を伴わない訪問割合が多いことが一因と考えられます。

図 20　消費額（来訪者）

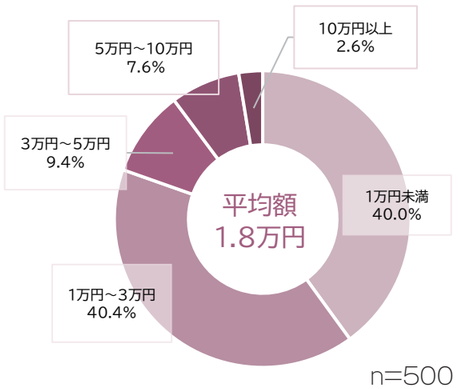
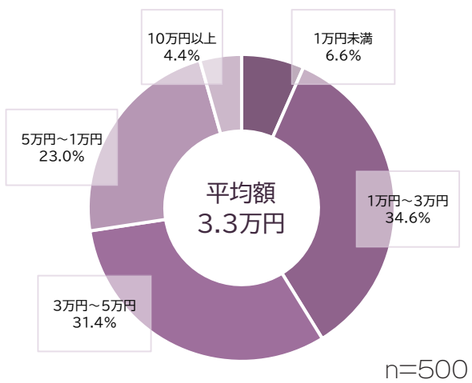


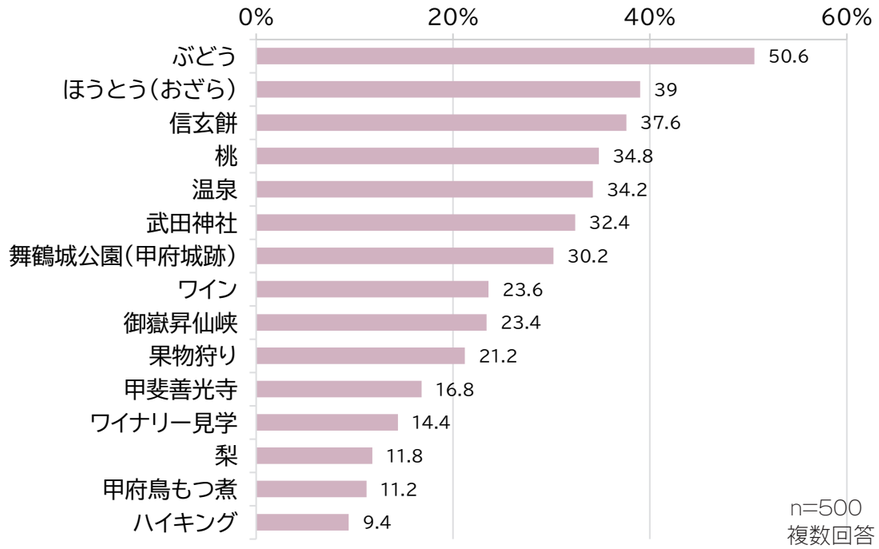
図 21　消費額（非来訪者）



⑥　甲府を旅先に決めた理由（来訪者）

旅先に決めた理由で上位にあるのが、「ぶどう」が50.6%で最も多く、次いで「ほうとう」「信玄餅」「桃」と食に関することが上位を占めています。

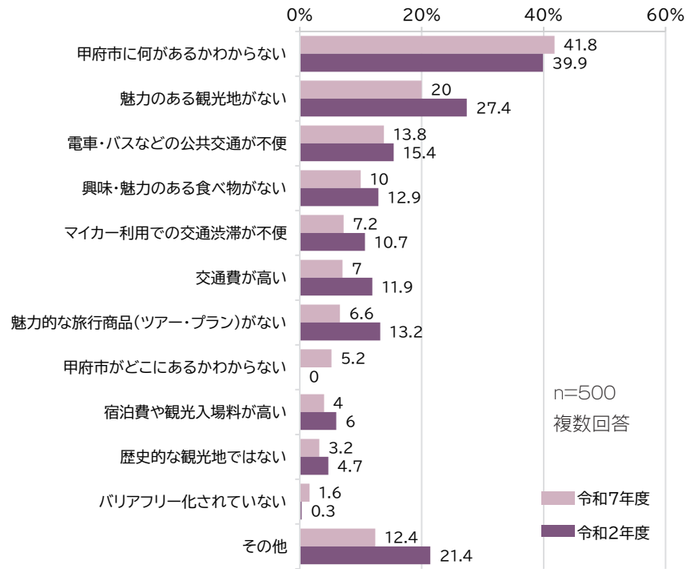
図 22　甲府を旅先に決めた理由



⑦　甲府を旅先に選ばなかった理由（非来訪者）

「何があるのかわからない」が41.8%で最も多くなっています。先の情報の入手方法（図18）では「インターネットでたまたま見つけた」が最も多く、次いで「家族や友達から直接聞いて」が多いことからも、旅先の選択肢に入りにくい状況がうかがえます。前計画策定時（令和2年度）と比較すると、多くの項目において比率が下がっています。

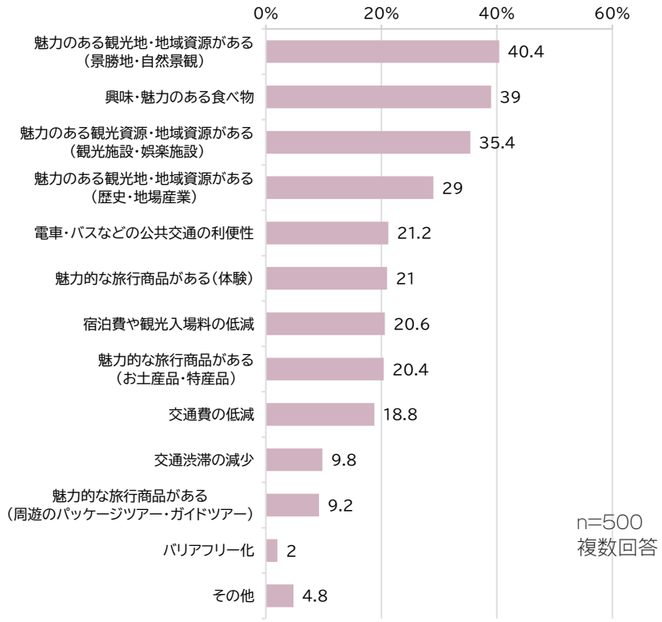
図 23 甲府を旅先に選ばなかった理由



⑧　甲府を旅先にするための条件（非来訪者）

今まで甲府に来たことのない人が、甲府を旅先にするための条件として、「魅力ある観光地・地域資源」が40.4%で最も多く、次いで「興味・魅力のある食べ物」となっています。

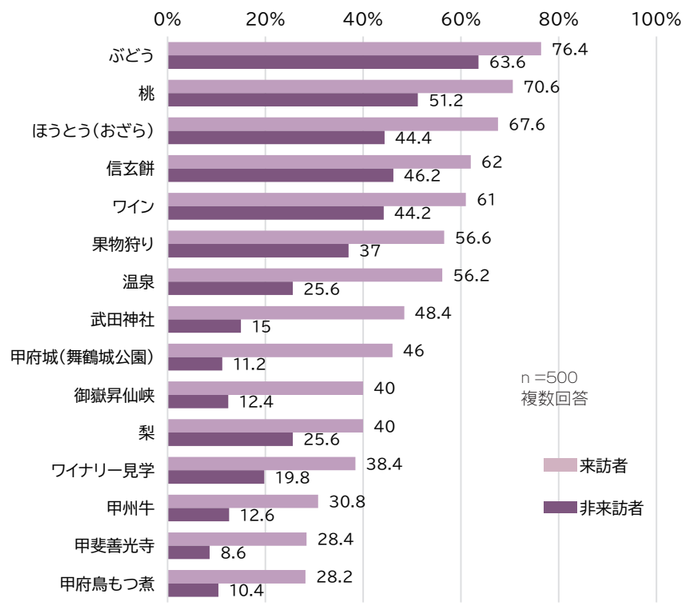
図 24 甲府を旅先にするための条件



⑨　甲府の観光資源の認知度（来訪者・非来訪者）

来訪者においては認知度が高いものは食資源が多く、食べるだけでなく、果物狩りやワイナリー見学など食を通じた観光コンテンツも高くなっています。非来訪者においても食資源の認知度は高くなっています。

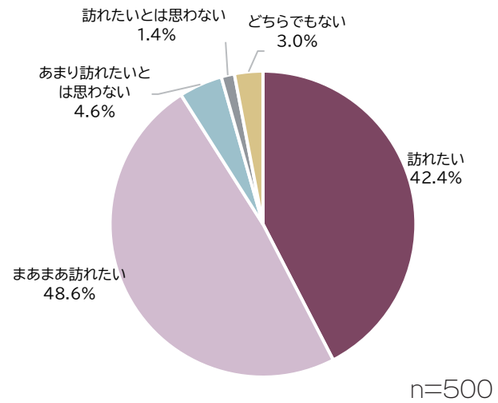
図 25　観光資源の認知度



⑩　もう一度甲府に来たいと思う人の割合（来訪者）

もう一度甲府に来たいと思う人の割合は、「訪れたい」「まあまあ訪れたい」の回答が91.0%を占め、来訪者においては再来が期待されます。

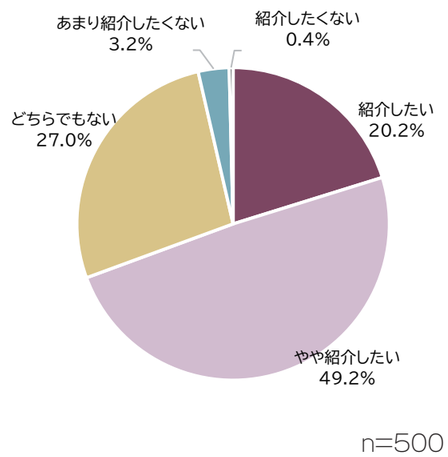
図 26　再来訪意向



⑪　甲府を旅先として紹介したいと思う人の割合（来訪者）

甲府を旅先として紹介したいと思う人の割合については、「紹介したい」「やや紹介したい」の回答が69.4%を占めています。

図 27　紹介意向



■荒川ダムのカヌー体験

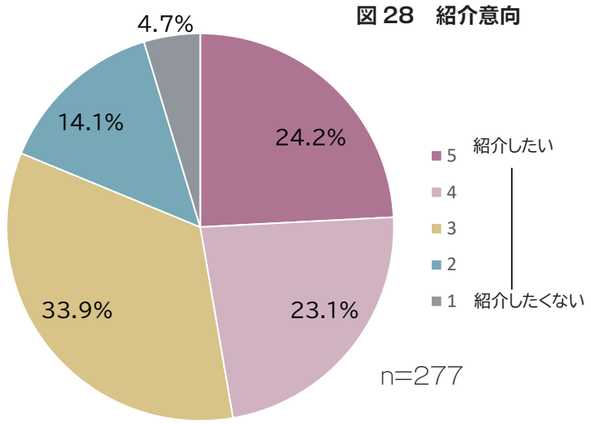
（2）市民アンケート調査

令和7年度に実施した市民アンケート調査において、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに向け、市民の本市の観光に対する認識や、紹介意向、本市の観光振興に対する期待、不安等を把握しました。

①　市民が甲府を観光地として紹介したい割合

強い紹介意向のある市民は24.2%に留まり、「4」及び「5」の紹介意向を合わせても47.3%と半数に届かない結果となりました。

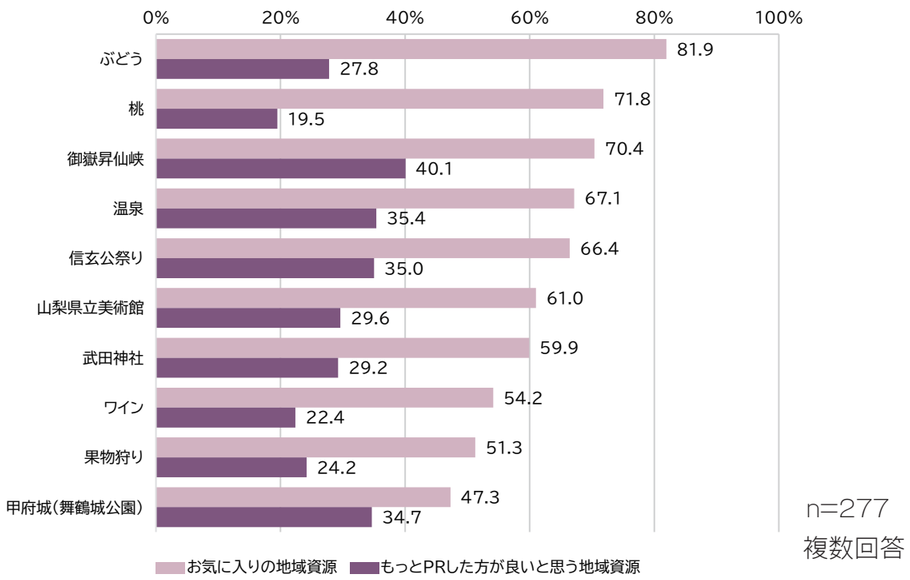
図 28　紹介意向



②　市民が考える「お気に入りの地域資源」と「もっとPRした方が良いと思う地域資源」

市民が考える「お気に入りの地域資源」は「ぶどう」が81.9%と最も多く、次いで「桃」「御嶽昇仙峡」「温泉」「信玄公祭り」となっています。

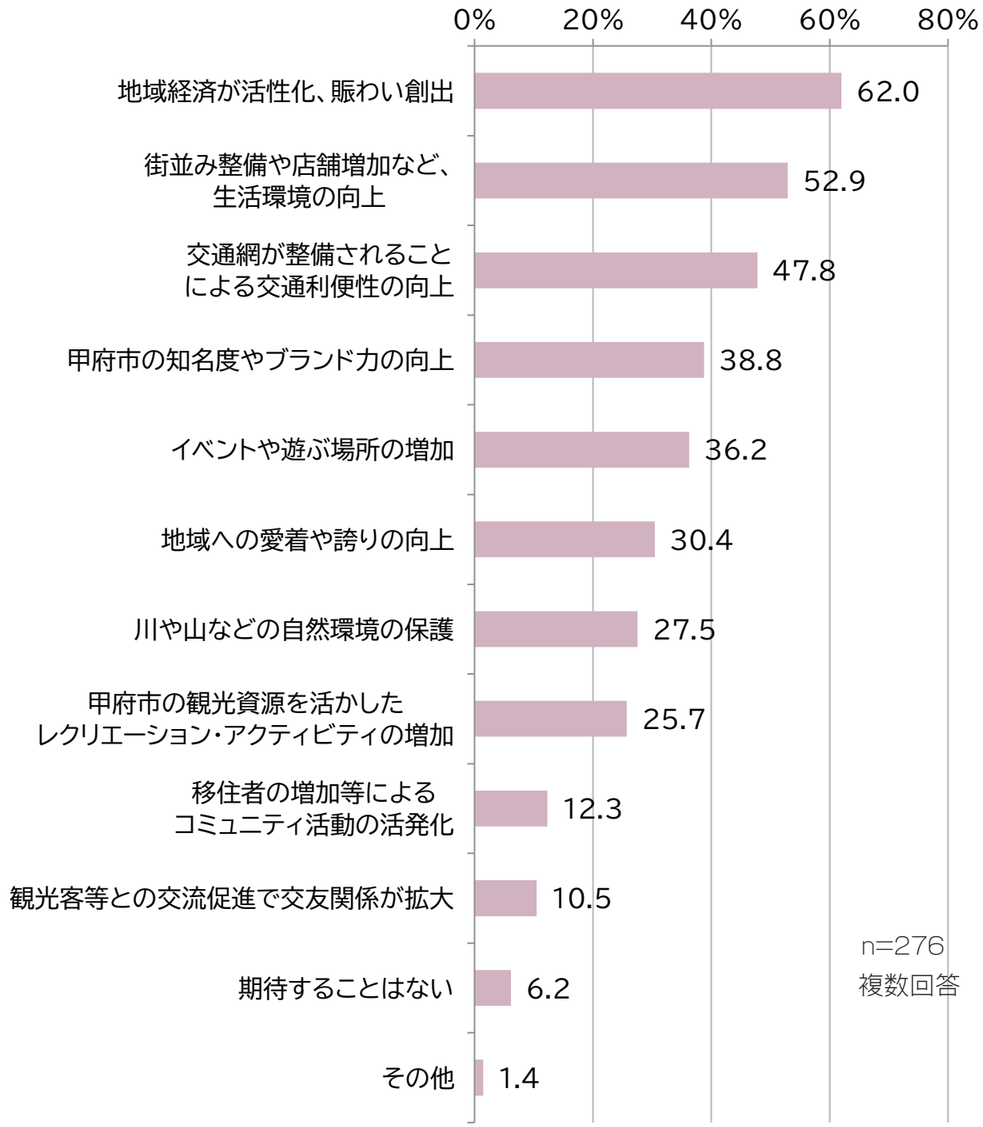
図 29　「お気に入りの地域資源」と「もっと PR した方が良いと思う地域資源」



③　観光で地域が活性化することによって期待すること（市民）

期待が高いのは、「地域経済の活性化、賑わい創出」が62.0%と最も多く、次いで「街並み整備や店舗増加など、生活環境の向上」が52.9%、「交通網が整備されることによる交通利便性の向上」が47.8%となっています。

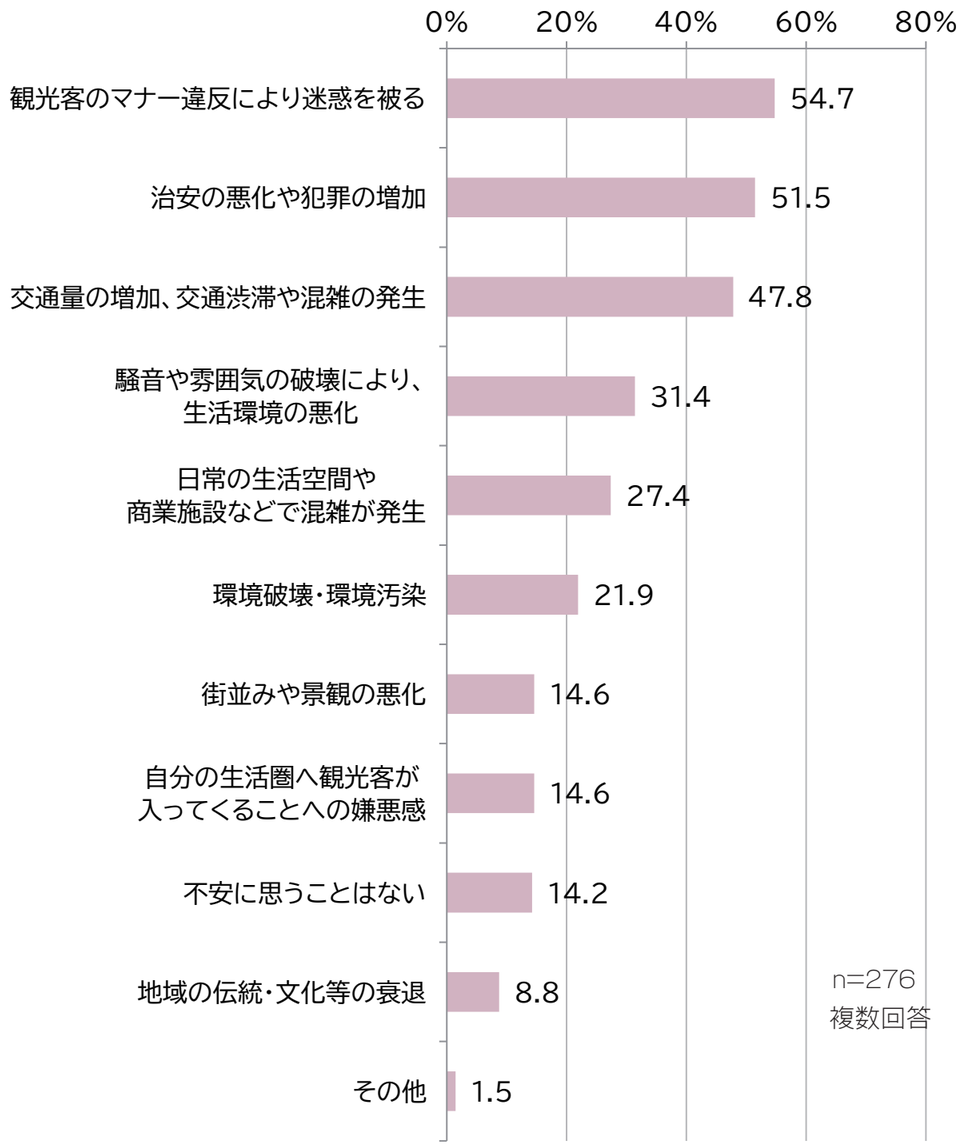
図 30　観光で地域が活性化することによって期待すること



④　観光で地域が活性化することによって不安に思うこと（市民）

市民が今後の観光の活性化によって感じている不安は、「観光客のマナー違反により迷惑を被る」が54.7%と最も多く、次いで「治安の悪化や犯罪の増加」が51.5%、「交通量の増加、交通渋滞や混雑の発生」が47.8%であり、市民が不安を抱くことのない取組が求められます。

図 31　観光で地域が活性化することによって不安に思うこと



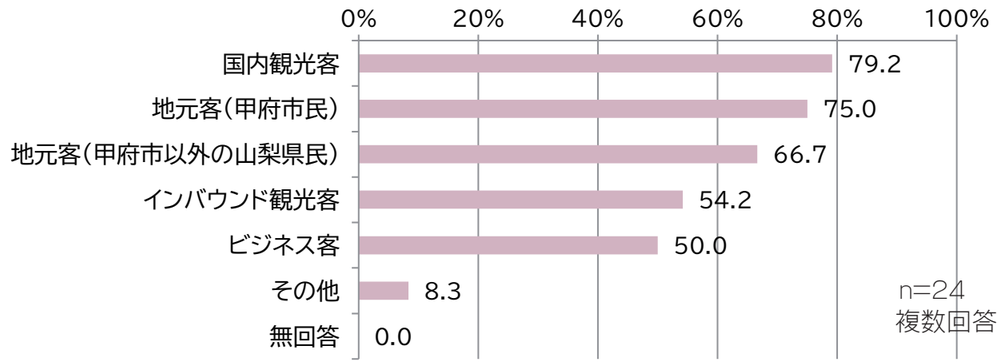
（3）事業者アンケート調査

市内の観光関連事業者に対して観光への取組や現状などについてアンケート調査を行いました。

①　顧客層

顧客層は「国内観光客」が79.2%と最も多く、次いで「地元客（甲府市民）」が75.0%、「地元客（甲府市以外の山梨県民）」が66.7%、「インバウンド観光客」が54.2%となっています。

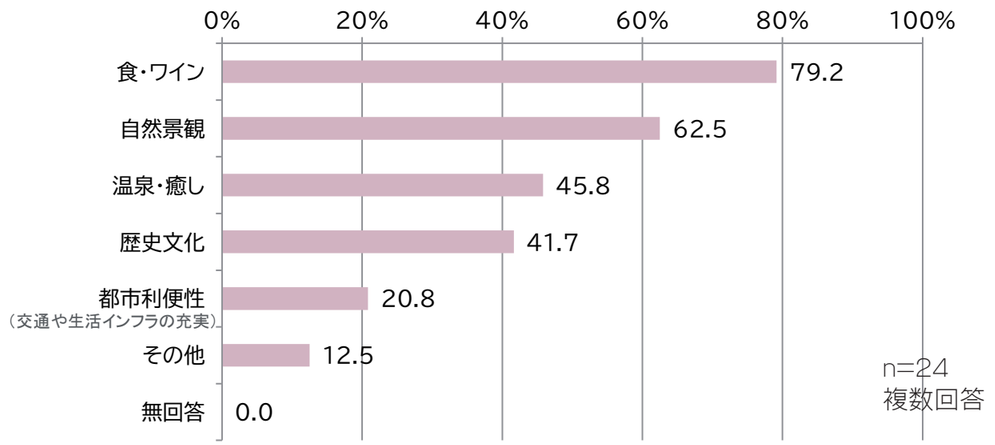
図 32　顧客層



②　事業者目線の本市の強み

事業者目線での本市の強みは「食・ワイン」が79.2%と最も多く、次いで「自然景観」が62.5%、「温泉・癒し」が45.8%、「歴史・文化」が41.7%となっています。

図 33　事業者目線の本市の強み



③　事業者におけるインバウンドの受入環境整備状況と受入環境の課題

事業者におけるインバウンドの受入環境整備の状況（図34）については、「キャッシュレス決済」が58.3%と最も多く、次いで「多言語対応」が37.5%、「Wi-Fi通信」が33.3%、「特になし」が25.0%となっています。

インバウンド受入の課題（図35）については、「多言語対応」が41.7%と最も多く、次いで「交通アクセス・公共交通（二次交通）」が37.5%、「スタッフの語学対応力不足」「情報発信・マーケティング」「インバウンドの受入を考えていない・特に対応する予定はない」が29.2%となっています。

図 34　事業者におけるインバウンドの受入環境整備状況

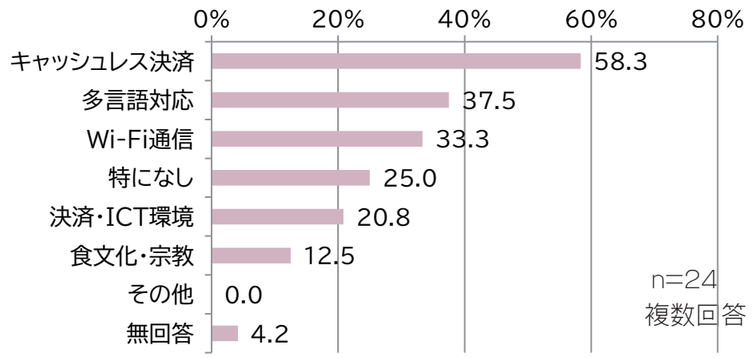
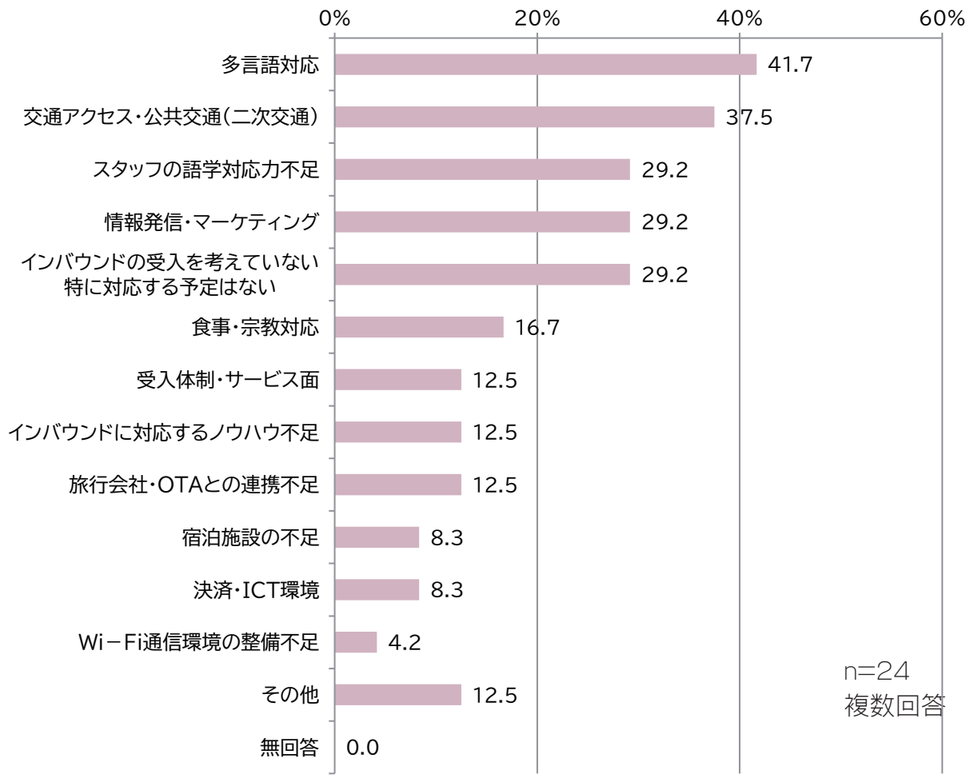


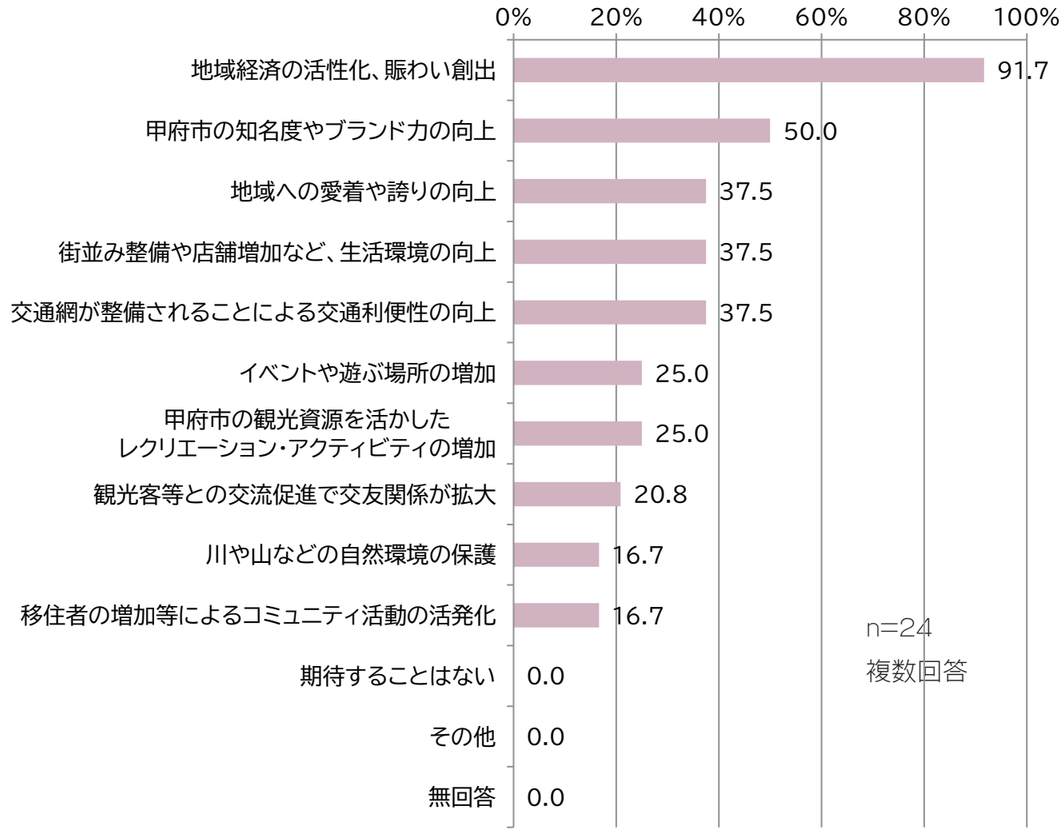
図 35　事業者におけるインバウンドの受入環境の課題



④　観光で地域が活性化することによって期待すること（事業者）

事業者が観光で地域が活性化することによって期待することは、「地域経済の活性化、賑わい創出」が91.7%と最も多く、次いで「甲府市の知名度やブランド力の向上」が50.0%、「地域への愛着や誇りの向上」「街並み整備や店舗増加など、生活環境の向上」「交通網が整備されることによる交通利便性の向上」が37.5%となっています。

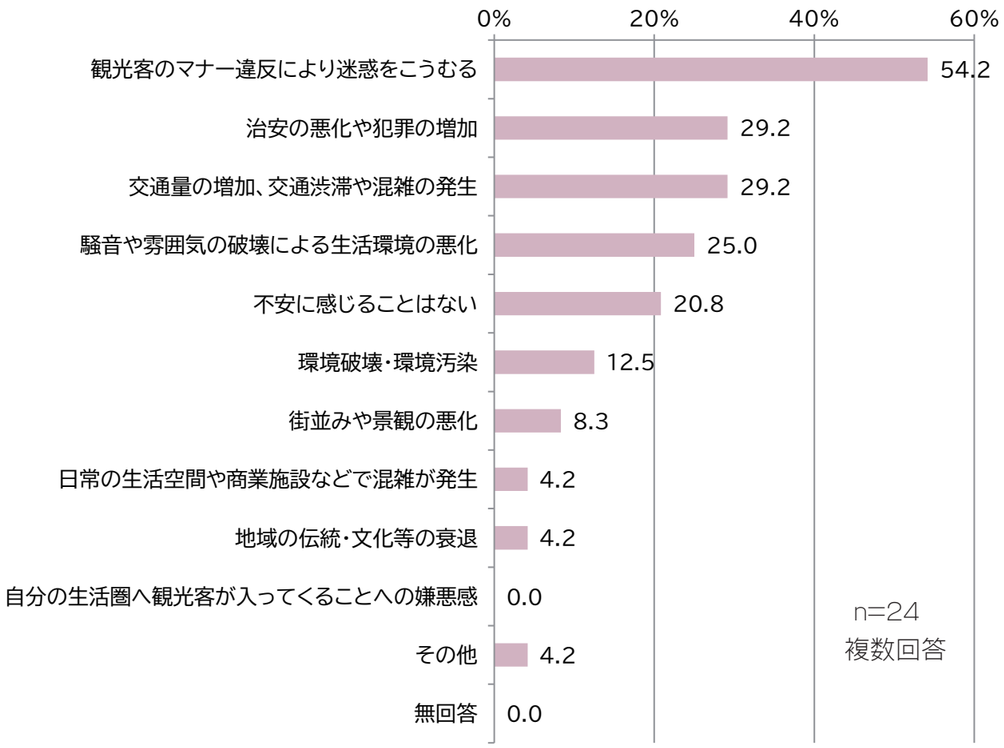
図 36　観光で地域が活性化することによって期待すること



⑤　観光で地域が活性化することによって不安に思うこと（事業者）

観光で地域が活性化することによって事業者が感じている不安は、「観光客のマナー違反により迷惑をこうむる」が54.2%と最も多く、次いで「治安の悪化や犯罪の増加」「交通量の増加、交通渋滞や混雑の発生」が29.2 %、「騒音や雰囲気の破壊による生活環境の悪化」が25.0%となっています。

図 37　観光で地域が活性化することによって不安に思うこと



04 | 現状からみる課題

アンケート調査の結果等により、本市の観光における主な課題を次のとおり整理しました。

1．観光消費額が伸び悩む

甲府市の観光客の観光消費額が伸び悩んでいます。首都圏からのアクセスの良さから多くの来訪はあるものの、日帰り観光客の割合が高く、観光地での滞在時間が比較的短いことから、魅力的な滞在型コンテンツの充実や周辺エリアを含む周遊の促進などが必要です。

2．情報発信の効果が限定的

甲府市の観光の認知度が高くなく、旅行先の選択肢に上がらないことが課題です。外国人宿泊者数もコロナ禍前の状況には達しておらず、情報発信が十分ではないと考えられます。多様な情報発信は行われていますが、実際の周遊・消費・宿泊行動につなげるための取組と訴求力を高めた発信が必要です。

3．市民のこうふ愛の更なる醸成

自分たちのまちをもっと紹介したいと考える市民が約半数にとどまることから、観光による賑わいの創出や地域経済を活性化させるために、こうふ愛の更なる醸成が必要です。

4．二次交通が不足している

観光地へのアクセスや観光地間を結ぶ公共交通の利便性に課題があり、市民からも観光をきっかけとした移動利便性の向上が期待されています。今後はリニア山梨県駅（仮称）の開業により人流増加が見込まれるため、各観光地を結ぶ二次交通の充実が必要です。

3

第3章

目指すべき観光地像と基本方針

01 | 甲府市の目指すべき観光地像

ふるさとへの誇りが人々を惹きつけ、住む人も訪れる人も幸せになるまち

～宝石のように人々が輝き続ける　山の都こうふ～

本市が目指す観光地像は、観光による一時的な賑わいを創出するだけでなく、市民が「ふるさと甲府」の魅力に誇りを持ち、その誇りが人々を惹きつけ、住む人も訪れる人も幸せを実感できるまちを実現することです。

本市は、盆地を囲む山々とともに歩んできた都市であり、「日本遺産 御嶽昇仙峡」をはじめとする雄大な自然は、信仰や暮らし、産業、文化と深く結びつきながら、まちの成り立ちを形づくってきました。山は、景観としての魅力に加え、水や農産物、鉱物資源などの恵みをもたらし、人々の営みと都市の発展を支えてきた存在です。

こうした山々に囲まれた都市構造は、市街地と自然が身近に調和する本市ならではの特徴であり、市民にとっては誇りと安らぎの源となっています。また、来訪者にとっては、都市に滞在しながら雄大な自然や歴史・文化に触れられる、他都市にはない体験価値を生み出しています。

さらに、山の恵みに育まれてきた宝飾産業や食文化、温泉などの地域資源は、本市の個性を際立たせるとともに、観光を通じて、人と人、人と地域とをつなぐ重要な役割を担っています。これらの資源を磨き、分かりやすく発信し、体験として届けていくことで、市民の誇りの醸成と地域経済の活性化につなげていきます。

本計画では、こうした本市ならではの地域資源を観光の力として活かし、「観光による地域経済の活性化」と「市民の誇りと満足度の向上」を両立させる持続可能な観光振興を進めます。
以上を踏まえ、「ふるさとへの誇りが人々を惹きつけ、住む人も訪れる人も幸せになるまち」を、本市の目指すべき観光地像とします。
なお、サブタイトルにある「宝石のように人々が輝き続ける 山の都こうふ」は、盆地を囲む山々の恵みの中で、人々の営みや魅力が磨かれ、輝き続ける都市の姿を表したものです。

02 | 観光地像の実現に向けた5つの基本方針

本市がこれまで守り、受け継いできた自然・歴史・文化・産業といった多彩な地域資源を適切に保全・活用し、その価値を持続的に高めていくためには、地域の魅力を的確に捉え、磨き上げていくことが重要です。

また、観光を通じて地域が賑わい、住む人と訪れる人の双方が心地よく過ごせる環境をつくるためには、地域の魅力を共有し、誰もが安心して過ごせる受入体制の整備や、多様な主体が連携して観光を支える体制づくりが求められます。

こうした考え方から、本市では、エリアごとの強みを引き出す観光地づくり、甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化、こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進、誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実、そして観光を前進させる体制づくりを柱として、今後の観光地域づくりの方向性を示す5つの基本方針を定めました。

これらの基本方針に基づき、市民・事業者・行政が一体となって取組を進めることで、目指すべき観光地像の実現を図ります。

基本方針1	エリアごとの強みを引き出す観光地づくり
基本方針2	甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化
基本方針3	こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進
基本方針4	誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実
基本方針5	観光を前進させる体制づくり

4

第4章
施策と具体的な取組

01 | 施策体系

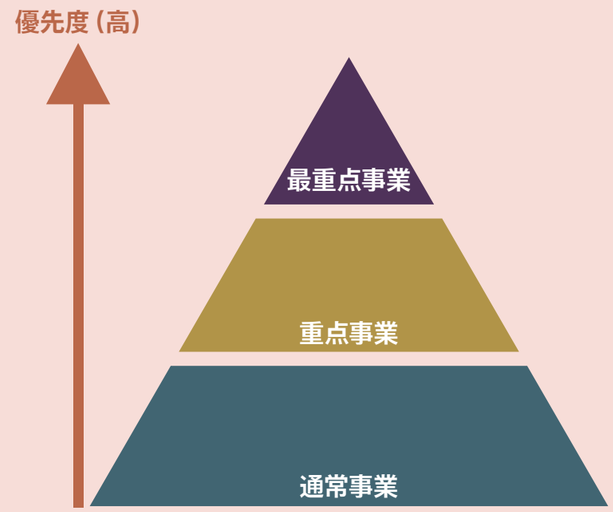
目指すべき観光地像	基本方針	施策
ふるさとへの誇りが人々を惹きつけ、住む人も訪れる人も幸せになるまち ～宝石のように人々が輝き続ける　山の都こうふ～	基本方針1 エリアごとの強みを引き出す観光地づくり	1－1　北部エリアの観光地づくり
		1－2　中心エリアの観光地づくり
		1－3　南部エリアの観光地づくり
	基本方針2 甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化	2－1　『山の都こうふ』の推進
		2－2　『甲府ブランド』の活用と磨き上げ
		2－3　武田氏の歴史を活用した観光推進
		2－4　ユニークなコンテンツを活用した取組の推進
		2－5　選ばれる甲府に向けたマーケティングプロモーションの強化
	基本方針3 こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進	3－1　こうふ愛を醸成する取組
		3－2　公民連携による生活の質を向上させる取組
		3－3　市民が観光に関わるための取組
	基本方針4 誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実	4－1　観光関連施設の維持管理と充実
		4－2　回遊性・周遊性の向上
		4－3　インバウンドの誘客
	基本方針5 観光を前進させる体制づくり	5－1　観光推進体制の整理
		5－2　広域連携（県央ネットやまなし※4等）の強化
		5－3　観光関連団体及び事業者等との連携強化

※4：県央ネットやまなし
山梨県内の９市３町（甲府市、韮崎市、南アルプス市、甲斐市、笛吹市、北杜市、山梨市、甲州市、中央市、昭和町、市川三郷町、富士川町）が連携して構成する県央ネットやまなし（やまなし県央連携中枢都市圏）では、各地域の個性を互いに尊重しながら連携・協力を一層深めてスクラムを組み、圏域全体の経済の成長と、圏域の住民全体の豊かで快適な暮らしの実現に向けて、様々な取り組んでいる。

事業の位置付け

本計画においては、各事業をその役割や優先度に応じて、**「最重点事業」**、**「重点事業」**、**「通常事業」**の3つに区分し、限られた資源を効果的に活用しながら、計画的な推進を図ることとします。

事業の推進にあたっては、年度ごとに開催する推進会議において、進捗状況や取組内容を共有し、計画的な推進を図ります。



最重点事業

最も重要性が高い事業です。調査結果等から明らかになった課題への対応や、本計画が目指す観光地像の実現に向けて最も優先して取り組みます。

重点事業

計画期間を通じて特に力を入れて推進する必要がある事業です。観光施策の効果を高める上で重要性が高く、一定の優先度をもって実施することで、計画の目標達成に向けた取組を着実に進める役割を担います。

通常事業

観光振興を推進する上で継続的に取り組むべき基本的な事業です。事業の積み重ねを通じて観光振興の基盤を形成し、計画全体を着実に前進させる役割を担うものとして位置付けています。

02 | 基本方針１の具体的な取組

基本方針１：エリアごとの強みを引き出す観光地づくり

本市は南北に長い地形を有し、北部には本市を代表する観光地である「日本遺産 御嶽昇仙峡」や、再開発事業が進む「信玄の湯 湯村温泉」があります。中心エリアには「舞鶴城公園」や「武田神社」などの歴史・文化に触れながらまち歩きを楽しめる資源が集積しています。さらに、南部には「小瀬スポーツ公園」をはじめ、豊富な農産物、甲斐銚子塚古墳や中道往還などの歴史資源が広がっており、エリアごとに異なる魅力と特徴があります。

こうした各エリアの強みを活かし、ハードとソフト両面の整備を進めることで、本市の課題である「滞在時間の延伸」や「観光消費額の増加」につなげていきます。

施策・事業一覧

施策	事業
1−1 北部エリアの観光地づくり	★ 「信玄の湯 湯村温泉」再開発事業への支援 ★ 「日本遺産 御嶽昇仙峡」の取組による地域活性化
1−2 中心エリアの観光地づくり	● こうふ亀屋座・小江戸甲府花小路を活用した賑わいの創出 ● 甲府城の活用及び周辺地域の活性化 ● まち歩きの推進 ○ ナイトタイムエコノミーの推進 ○ 武田氏館跡周辺地域の整備と活用 ○ 遊亀公園附属動物園のリニューアル ○ 甲斐善光寺、山梨県立美術館等の活用
1−3 南部エリアの観光地づくり	● リニア山梨県駅（仮称）周辺のまちづくりの検討 ○ 小瀬スポーツ公園の来場者に周遊してもらう取組の推進 ○ 甲府南IC周辺施設を活用した取組

★最重点事業　●重点事業　○通常事業

◆北部エリア

雄大な自然や歴史ある温泉地を有する本市の観光を象徴するエリア

■長潭橋

■金峰山

■金櫻神社

■弥三郎岳（羅漢寺山）

■信玄の湯 湯村温泉

◆中心エリア

歴史とともにまち歩きや賑わいを楽しむエリア

■信玄公像

■山梨ジュエリーミュージアム

■武田神社

■小江戸甲府花小路

■甲斐善光寺

■舞鶴城公園

■山梨県立美術館（芸術の森公園）

◆南部エリア

豊富な農作物に恵まれ、スポーツを楽しみ、歴史・文化に触れられるエリア

■スイートコーン

■小瀬スポーツ公園

■ヴァンフォーレ甲府

■中道往還

■風土記の丘農産物直売所

施策1ー1：北部エリアの観光地づくり

北部エリアに位置する「信玄の湯 湯村温泉」及び「日本遺産 御嶽昇仙峡」は、観光の受入拠点として核となる重要な地域です。地域資源を活かした観光拠点の再生と高付加価値化を進めることで、滞在時間の延伸と観光消費額の増加を図っていきます。

具体的には、「信玄の湯 湯村温泉」再開発事業への支援や昇仙峡エリアにおける観光資源の活用と事業化、さらに御嶽古道の整備や山岳信仰を含む多様な情報発信などを関係する団体や自治体と連携して取り組みます。体験価値や回遊性の向上により、本市を代表する観光拠点としての魅力と機能のさらなる向上を目指します。

現状・課題

「信玄の湯 湯村温泉」では、宿泊施設の数がピーク時に対して大きく減少するなど、以前に比べて活気を失っている状況です。また、「日本遺産 御嶽昇仙峡」においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光入込客数は令和２年から令和３年にかけて減少しました。

コロナ禍以降は近距離観光や自然志向の高まりを背景に、御嶽昇仙峡の観光入込客数の回復の兆しが見られています。また、「信玄の湯 湯村温泉」では、地域DMO※5である甲府観光開発株式会社が中心となり再開発事業が進められており、新たな宿泊施設や受入拠点の整備など、観光地としての再生に向けて取り組んでいます。

事業	内容
最重点事業 「信玄の湯 湯村温泉」 再開発事業への支援	甲府観光開発株式会社が策定した「信玄の湯 湯村温泉」再開発事業計画に基づき、環境整備や施設整備、二次交通整備などの伴走支援を実施し、観光地としての再興、さらなる高付加価値化を目指します。
最重点事業 「日本遺産 御嶽昇仙峡」 の取組による地域活性化	新たな地域活性化計画に基づき、日本遺産を活用した地域活性化に取り組みます。ストーリーを体感的に学ぶことができる探求の地として昇仙峡を位置付け、歴史・文化、自然を活かしたコンテンツの充実により来訪者の満足度を高めるとともに、子どもをはじめとした地域住民が郷土に誇りを持ち愛着を醸成する取組などを推進します。また、昇仙峡エリアの回遊性の向上や通信環境の改善など、地域が抱えている課題解決に取り組みます。

※5　地域DMO：地域の観光資源を統合的に管理・運営し、観光振興を担う組織

コラム

地域 DMO　甲府観光開発株式会社の取組

「信玄の湯 湯村温泉」再開発事業

「信玄の湯 湯村温泉」は、本市唯一の温泉街として、長く市民や来訪者に親しまれてきました。近年では、地域DMOである甲府観光開発株式会社が主体となり、「やまなしの“ほんもの”と出会う場所」をコンセプトに、温泉街が持つ本来の魅力を現代のニーズにあわせるべく、再開発事業が進められています。

今後は、温泉街の景観や各施設の魅力を高める取組に加え、ハード整備などを通じて、人が集い、まちを回遊しながら過ごせる環境づくりが進められていく予定です。民間事業者の創意工夫を軸に、温泉・まち・人がつながることで、「信玄の湯 湯村温泉」は甲府の魅力を支える拠点として生まれ変わります。

■令和７年８月にリニューアルした旅館明治・鷲の湯

施策1－2：中心エリアの観光地づくり

甲府駅周辺の中心エリアは、主要な観光拠点が集積しており、滞在型観光地としての今後の発展が期待される重要な地域です。こうふ亀屋座・小江戸甲府花小路、舞鶴城公園、商店街、甲州夢小路、山梨ジュエリーミュージアムなどの多様な拠点を活かし、市街地全体を面的に観光地化していく取組を推進します。

具体的には、中心エリアにおけるイベントの展開や、歴史資源を活かした体験型観光コンテンツの構築、エリア間の回遊性向上やまち歩きの環境づくり、夜間滞在を促すナイトタイムエコノミーの推進に取り組みます。あわせて、武田氏館跡や遊亀公園附属動物園などの整備・活用を進めることで、観光客と市民の双方が歴史に触れながらまち歩きが楽しめる都市観光としての魅力を高めていきます。

現状・課題

中心エリアには、武田神社、甲府城跡（舞鶴城公園）、甲斐善光寺といった歴史資源をはじめ、ワイナリーや甲州夢小路など、多様な観光資源が点在しています。しかし、これらの資源が十分に結びついておらず、エリア全体としてのまち歩きが楽しめる環境が確立されていないことから、「歩いて楽しめるまち」としての魅力が十分に発揮されていない点が課題となっています。

一方で、近年はこうふ亀屋座・小江戸甲府花小路のオープンや、公民連携（甲府まちなかエリアプラットフォーム）によるまちなかの再生の取組が進み、新たな回遊を生み出す動きもあります。今後は、武田氏館跡周辺の整備や遊亀公園附属動物園のリニューアルを契機として、市街地全体が「歩いていて楽しめるまち」としての魅力を高めていくことが期待されます。

コラム
甲府まちなかエリアプラットフォームの取組

まちの魅力を高めるものは観光だけではありません。日常の中でふと感じる居心地のよさや、顔の見える人とのつながりが、「このまちで過ごしたい」という気持ちを育て、まちへの愛着を深めていきます。本市では、「大好きな甲府の日常」をまちなかにいる人が感じられるよう、公民が連携した「甲府まちなかエリアプラットフォーム」による様々な取組が進められています。

市民の方々、民間事業者、行政がそれぞれの「得意」を持ち寄り、居心地のいい居場所づくりや、甲府らしい活動の創出、つながりやすい導線をつくることで、ぐるりと回遊して楽しめるまちとなり、まちなかに集う人が「ここにいると心地いい」、「暮らしが豊かになった」と感じられる場面が増えていきます。そんな何気ない実感の積み重ねこそが、「甲府らしさ」として、まちの魅力を高めていきます。

■取組の様子

「大好きな甲府の日常」をまちなかにつくる

事業	内容
重点事業 こうふ亀屋座・小江戸甲府花小路を活用した賑わいの創出	こうふ亀屋座の指定管理者及び小江戸甲府花小路の運営事業者と連携しながら、年間を通じて魅力的なイベントを実施します。市内外に積極的にプロモーションを行っていくことで、こうふ亀屋座の利用者と小江戸甲府花小路及び中心商店街への来訪者の増加を目指します。
重点事業 甲府城の活用及び周辺地域の活性化	甲府城が持つ歴史的・文化的な価値を最大限に活かすため、これまでにない新しい体験型観光コンテンツを構築するほか、訪れる人々が自然に歩きたくなるような魅力的な空間を整備し、更なる回遊性の向上を図ることで、周辺地域の活性化を目指します。
重点事業 まち歩きの推進	甲府駅周辺には、舞鶴城公園やこうふ亀屋座・小江戸甲府花小路、甲州夢小路に加えて商店街エリアなど、散策を楽しめる拠点が集まっています。これらの拠点を歩いて巡れるよう、エリア間のつながりを意識したアクセスの動線や案内の充実、回遊ルートの形成などを検討し、まち歩きが楽しめる環境づくりを進めます。
ナイトタイムエコノミーの推進	観光客の滞在時間を延伸し、観光消費額の増加につなげるため、夜間の回遊コンテンツの充実と飲食店などの情報発信により、甲府ならではの魅力ある夜間滞在を創出するナイトタイムエコノミーの推進に取り組みます。
武田氏館跡周辺地域の整備と活用	「史跡武田氏館跡保存活用計画」に基づく武田氏館跡周辺の復元公開と活用を関係団体と連携して推進します。また、武田氏三代の歴史を積極的に情報発信し、誘客を図ります。
遊亀公園附属動物園のリニューアル	令和8年度はリニューアル工事中の動物園を一部限定的に開園するとともに、SNSやホームページ等を活用した情報発信を実施します。令和9年度中の動物園のオープンを目指して整備事業を実施し、令和10年度中に遊亀公園全体のオープンを目指します。
甲斐善光寺、山梨県立美術館等の活用	令和9年度に予定されている甲斐善光寺の御開帳に合わせたPRを実施します。また、県立美術館・県立文学館のイベントや展覧会に合わせ、情報発信を行います。

施策1－3：南部エリアの観光地づくり

南部エリアは、スポーツ、歴史、農業など多様な観光資源を有するとともに、今後リニア山梨県駅（仮称）の開業により、新たな交流人口の拡大や滞在型観光の展開が期待される地域です。南部エリアの強みを活かした観光地づくりを進めることで、市全体の回遊性を高め、観光消費の拡大と地域活力の向上につなげていきます。

具体的には、リニア山梨県駅（仮称）周辺のまちづくりの検討を進めるとともに、小瀬スポーツ公園の来場者が市域を回遊してもらう取組や、甲府南IC周辺に集積する農作物や歴史・文化資源などを活用した魅力形成と情報発信を推進します。これらを通じて、南部エリアが来訪者と市民がともに魅力を感じられるよう、観光地づくりを進めます。

現状・課題

南部エリアは、曽根丘陵公園や東日本最大級の甲斐銚子塚古墳、山梨県立考古博物館、中道往還などの歴史や文化に加え、農の風景が広がっています。また、プロサッカーチームであるヴァンフォーレ甲府のホームゲームが行われる小瀬スポーツ公園が立地するなど、スポーツを核とした集客力も備えています。

一方、北部エリアや中心エリアと比べて観光地としての認知度は低く、誘客力の弱さが課題となっています。その背景には、宿泊施設や飲食店などの観光関連施設の不足、公共交通の利便性の低さなど、滞在型観光を支える基盤が十分に整っていない状況があります。

こうした中、リニア山梨県駅（仮称）の開業を見据え、広域的な交流の拡大や周辺開発が期待されており、南部エリアは新たな甲府の玄関口として、国内外からの交流人口の拡大に寄与する可能性を有しています。

事業	内容
重点事業 リニア山梨県駅（仮称）周辺のまちづくりの検討	リニア山梨県駅（仮称）の開業による新たな交流の波を確実に本市や圏域全体に波及させるべく、駅前エリアを新たな甲府・山梨の玄関口ととらえ、観光のハブとして必要な機能を検討するとともに、来訪者、市民双方にとって魅力あるまちづくりを検討します。
小瀬スポーツ公園の来場者に周遊してもらう取組の推進	スポーツ大会やヴァンフォーレ甲府のホームゲームを活用した誘客を実施します。また、来場者に向け、中心市街地や他の観光地を紹介する取組を検討します。さらに、第81回国民スポーツ大会冬季大会（スケート競技会）及び令和9年度全国高等学校総合体育大会を契機とした誘客を図ります。
甲府南IC周辺施設を活用した取組	いちごやスイートコーンなどの高品質な果樹・野菜が生産され、新鮮な農作物が購入できる直売所のほか、山梨県立考古博物館や中道往還などの歴史資源を活用することで、観光客の滞在時間の延伸と地域の魅力向上を図ります。

■中道往還
■もろこしフェア

■小曲のいちご狩り

■天津司舞

03 | 基本方針2の具体的な取組

基本方針2：甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化

本市には、甲武信ユネスコエコパークに象徴される世界に認められた雄大な自然をはじめ、連綿と受け継がれてきた歴史・文化、国内外から高い評価を受けている宝飾産業や伝統工芸の甲州印伝、さらにワインや甲府鳥もつ煮に代表される地域に根差した食文化など、他都市にはない多彩な地域資源が数多くあります。

これらの「甲府ならではの魅力」を更に磨き上げ、資源を活かした体験型コンテンツの充実を図るとともに、効果的な情報発信により認知度の向上を進めることで、「観光入込客数の増加」や「観光消費額の増加」を図ることを、本方針に位置付けます。

施策・事業一覧

施策	事業
2－1 『山の都こうふ』の推進	● 県央ネットやまなしによる山のぼり・まち歩きの促進 ○ 甲武信ユネスコエコパークや甲府名山を活用した山歩きの推進 ○ スポーツ・アウトドアアクティビティの推進
2－2 『甲府ブランド』の活用と磨き上げ	★ ジュエリーを活用した誘客と地域経済活性化 ○ 伝統工芸・食・ワインの活用 ○ 農産物の魅力発信と交流促進事業
2－3 武田氏の歴史を活用した観光推進	● 史跡武田氏館跡の復元公開・活用 ○ 信玄ミュージアムの活用 ○ 武田氏ゆかりの地の活用
2－4 ユニークなコンテンツを活用した取組の推進	○ アニメ等を活用したプロモーションの実施 ○ 甲府ふるさと大使ハローキティの活用
2－5 選ばれる甲府に向けたマーケティングプロモーションの強化	★ 魅力発信による「こうふFAN」の拡大 ○ トレンドをとらえたプロモーションの推進 ○ わかりやすい観光情報の提供

★最重点事業　●重点事業　○通常事業

施策2－1：『山の都こうふ』の推進

本市は、豊かな自然と都市機能が近接する特性を有しており、「山の都」としての魅力を前面に打ち出した取組が可能な都市です。自然と都市観光を結びつけ、滞在・周遊を促進する観光地づくりを進めることで、本市ならではの新たな体験価値と来訪動機の創出を図ります。また、登山道や景勝地の保全等にも取り組み、美しい自然を将来に引き継いでいきます。

具体的には、県央ネットやまなしの枠組みを活用し、山のぼりとまち歩きを組み合わせた都市観光を推進します。また、甲武信ユネスコエコパークや甲府名山、御嶽古道などの活用により、山歩きや登山による観光を充実させるとともに、荒川ダムでのカヌーやSUP（スタンドアップパドルボート）、シャワークライミング、御嶽昇仙峡の雄大な自然を活かしたサイクルツアーやマウンテンバイクなど、スポーツ・アウトドア アクティビティの充実を図り、新たな誘客と滞在促進につなげます。

現状・課題

本市は、富士山や南アルプス、八ヶ岳などの山々に囲まれ、甲武信ユネスコエコパークや甲府名山、御嶽古道などの豊かな資源を有しています。市街地の歴史や文化の資源と近接していることから、山歩きとまち歩きを組み合わせた「山の都」ならではの観光を展開できる強みがあります。また、近年はアウトドア需要の高まりや県央ネットやまなしによる広域連携の進展を背景に、体験型観光による誘客拡大の可能性が高まっています。

一方で、各観光資源を活かした取組が個別に展開されており、統一的な情報発信が十分でないことから、周遊性の向上や、滞在時間の延伸につながりにくい状況があります。また、古道整備や安全対策、ガイド体制の確保、事業者連携など、受入環境の整備も課題となっています。

事業	内容
重点事業 県央ネットやまなしによる山のぼり・まち歩きの促進	県央ネットやまなしの取組において、四季折々の豊かな自然と都市機能を活かした都市観光を展開するため、「山のぼり・まち歩き促進事業」により山登りとまち歩きを結びつけ、広域的な周遊と滞在時間の延伸を図ります。
甲武信ユネスコエコパークや甲府名山を活用した山歩きの推進	甲武信ユネスコエコパークや甲府名山を活用した山歩きを推進するため、情報発信やPRイベントを実施します。 また、御嶽古道のルートの整備や「甲府名山手帳」の配布、登山事業の展開により滞在型観光の促進につなげます。
スポーツ・アウトドアアクティビティの推進	雄大な自然を活かした荒川ダムでのカヌー・SUPをはじめ、トレイルランニングやシャワークライミング、サイクルツアー、マウンテンバイクなど多様なアクティビティの充実を図ります。あわせて、本市の自然を体感できる新たな体験型コンテンツの造成に向け、関係団体や事業者と連携しながら調査・研究・開発を進め、新たな誘客の創出につなげます。

施策2－2：『甲府ブランド』の活用と磨き上げ

本市は宝飾産業をはじめ、甲州印伝などの伝統工芸、食、ワイン、農産物など、多彩な資源が集積する都市です。これらの地域ブランドを磨き上げ、観光・消費行動につなげる取組を進めることで、本市ならではの魅力の創出と地域経済の活性化を図っていきます。

具体的には、「宝石のまち甲府」の認知度拡大やふるさと納税制度を活用した「甲府ジュエリー認証制度」の信頼とブランド価値の向上、イベントの開催や情報発信、ツーリズム開発など、ジュエリーを核とした誘客と消費拡大を推進します。また、福井県鯖江市と連携し、両地域の産業特性や強みを生かした連携を進め、新たな価値創造を目指します。さらに、伝統工芸・食・ワインなどの地場産品に係るツアー造成への支援や「甲府之証」によるブランド発信、農産物直売所・観光農園を軸とした交流促進を通じ、地域資源の魅力を高めながら、「甲府ブランド」全体の強化と観光誘客の拡大へとつなげます。

現状・課題

本市には、食、伝統工芸品から農産物に至るまで、多彩な地場産品が集積しています。

とりわけ宝飾産業は全国トップシェアを誇り、研磨・鋳造・加工・デザイン・流通に至る宝飾工程が市内で完結している点が大きな強みです。世界に評価される研磨技術は医療機器など他産業にも応用されており、国内唯一の公立宝飾専門学校による人材育成も進んでいます。

一方で、こうした地域資源は観光客に十分知られておらず、来訪動機の形成につながっていない状況にあります。また、産業ごとに取組が進められていることから、横断的な商品展開や滞在型観光の形成が進みにくい点も課題です。

今後は、「宝石のまち甲府」のブランド力を高めるとともに、伝統工芸・食・ワインなどの地場産品を連携させた商品開発や滞在型コンテンツを展開し、地域全体の付加価値創出と消費拡大を図ることが求められます。

■甲府のワイン

■甲州印伝

事業	内容
最重点事業 ジュエリーを活用した 誘客と地域経済活性化	ジュエリーを活用した誘客と地域経済の活性化を図ります。イベントやインフルエンサーを活用した「宝石のまち甲府」のPRに加え、ふるさと納税制度を活用した「甲府ジュエリー認証制度」の信頼性とブランド価値の向上、ツーリズム開発などを通じて、ジュエリーを核とした新たな魅力創出と消費拡大につなげます。 また、福井県鯖江市との連携を進め、相互の強みを活かした企画等を検討し、ジュエリー産業の新たな可能性を広げていきます。
伝統工芸・食・ワインの活用	伝統工芸・食・ワインなどの地場産品の魅力発信とブランド化を推進するため、「甲府之証」を活用するとともに、本市の地場産品に関連するバスツアー造成への支援を検討し、体験機会の創出を図り、誘客促進と地域経済の活性化につなげます。 また、ジュエリー以外の地場産品についても、鯖江市との連携企画等を検討します。
農産物の魅力発信と 交流促進事業	農産物直売所での地場産品PRや観光農園の発信を強化します。さらに、農産物の販売促進活動などを活用した情報発信と都市農村交流を促進し、農産物を核とした体験・消費・誘客につなげます。

コラム
“ものづくり”の推進に向けて

”ものづくりのまち”福井県鯖江市との連携

眼鏡・繊維・漆器を基盤とする鯖江市と、宝飾産業を基盤とする甲府市は、いずれも日本を代表するものづくり産地です。

職人文化・分業制・中小製造業中心といった産地構造が共通しており、ものづくりの業態、素材や市場は異なるものの、眼鏡と宝飾はファッションアイテムとして親和性が高いことに加え、製造プロセスにおいて極めて高い共通性を持ちます。

両市は、広域レベルでのブランド力向上と担い手確保に資する新たな地方創生モデルを構築しようと、令和7年度より連携した事業を展開しています。

■眼鏡職人（鯖江市）

施策２－３：武田氏の歴史を活用した観光推進

本市は、武田氏ゆかりの史跡や文化資源が集積する歴史的背景を有しており、これらを活かした観光推進は、誘客拡大につながる重要な取組です。歴史資源を磨き上げ、体験を通じた滞在型観光の形成や地域への誇りの醸成につなげていきます。あわせて、文化財の保護と適切な活用を両立させ、市民や来訪者が歴史的価値に触れ、理解を深められる環境づくりを進めます。

具体的には、「史跡武田氏館跡保存活用計画」に基づく復元公開や周辺整備を進め、歴史に触れながら歩いて回遊できる環境を整備します。また、信玄ミュージアムの機能向上やイベント・学習受入の充実を図り、歴史を学び体験できる観光拠点としての活用を進めます。さらに、武田神社や要害山城など武田氏ゆかりの資源を磨き上げることで、歴史に根差した魅力ある観光地づくりと回遊性の向上につなげていきます。

現状・課題

本市には、史跡武田氏館跡や要害山城をはじめとする武田氏ゆかりの史跡や文化資源が集積しており、武田信玄に由来する歴史を軸とした高い観光のポテンシャルを有しています。一方で、これらの資源が十分に活かされておらず、学びや体験を通じた滞在型コンテンツとして来訪者に届いていないことが課題となっています。

現在、史跡武田氏館跡については、保存活用計画に基づく復元公開や周辺整備が進められ、信玄ミュージアムにおいても歴史学習の機会やイベントの充実など、活用に向けた動きがみられます。

今後は、歴史資源をつなぐ周遊の促進や、学びと体験を組み合わせた観光コンテンツの造成、地域全体での歴史・文化の発信を進めることが求められます。

これらの取組は、インバウンド誘客の強化に加え、市民が自らの歴史・文化に誇りを持つ機会の拡大にもつながり、地域資源を未来へ継承する基盤となることが期待されます。

事業	内容
重点事業 史跡武田氏館跡の 復元公開・活用	「史跡武田氏館跡保存活用計画」に基づき、歴史的価値を次世代へ継承するため保存・活用を進めるなかで、周辺地域の整備、復元公開等を行い、訪れる方が歴史を体感できる環境づくりと周遊の促進につなげます。
信玄ミュージアムの活用	指定管理者制度を活用した効率的な施設運営により、信玄ミュージアムの利便性の向上を図ります。また、武田氏の歴史をPRする事業・イベントの実施や観光客が歴史を体験できる事業を創出して誘客を図るとともに、遠足・校外学習の受入など地元に開かれた学びの場を提供し、観光・交流の拠点としての活用を推進します。
武田氏ゆかりの地の活用	武田氏ゆかりの地である武田神社や、要害山城など武田氏に関連する寺社・史跡などの歴史資源を活かし、そこを訪れてもらえる地域づくりの取組を検討します。

施策２－４：ユニークなコンテンツを活用した取組の推進

本市の魅力を幅広い層に発信し、新たな誘客につなげるため、アニメやキャラクターなどのユニークなコンテンツを活用した観光プロモーションを推進します。従来の観光資源だけでは十分に届きにくい層へのアプローチを強化し、話題性や関心の喚起を通じて、市全体の観光需要の拡大と回遊性の向上を図ります。

具体的には、アニメなどの舞台となった場所を巡る聖地巡礼や、人気キャラクターとのコラボレーション施策を展開し、ファン層との接点づくりと観光誘客につなげます。また、甲府ふるさと大使であるハローキティの発信力を活かし、イベントの実施や交流機会の創出を通じて、本市の認知度を高める取組と誘客促進を図ります。

現状・課題

本市では、歴史や自然の活用だけでなく、世界的に人気のあるキャラクターとの連携や、アニメ作品の舞台化など、新たな観光コンテンツの活用に取り組んでおり、若年層やアニメ作品のファンといった、これまで接点の少なかった層へのアプローチが期待されています。

一方で、アニメやキャラクターなどのポップカルチャーを活用した観光施策は市場が限定的であり、魅力提供の幅が十分とは言えない状況にあります。

今後は、アニメやキャラクターコンテンツを戦略的に活用し、既存の観光資源と組み合わせた回遊促進や消費拡大を図るとともに、交流人口の拡大につながる新たな魅力づくりが求められます。あわせて、甲府ふるさと大使であるハローキティの発信力と訴求力を更に活かすことで、認知度の向上や話題性の創出、誘客強化へとつながることが期待されます。

事業	内容
アニメ等を活用した プロモーションの実施	人気キャラクターやアニメなどを活用したプロモーションを展開するほか、アニメなどの舞台となった場所の情報発信を行い、コアなファン層との接点づくりや地域とのコラボ企画などを通じて、聖地巡礼などの誘客促進につなげます。 また、フィルムコミッションを通じた市内ロケ地の情報提供や作品ニーズに合ったロケ地を紹介し、地域のプロモーションにつなげます。
甲府ふるさと大使 ハローキティの活用	甲府ふるさと大使ハローキティの発信力と訴求力を活かし、各種イベントでの活用や交流の機会づくりを進め、誘客促進を図ります。

施策２－５：選ばれる甲府にむけたマーケティングプロモーションの強化

甲府が観光地として選ばれるためには、効果的な情報発信とマーケティングの取組を強化し、甲府ブランドの認知度の向上と誘客拡大につなげます。本市の魅力や取組を市内外に分かりやすく発信することで、ファン層の拡大と再訪の促進を図り、持続的な観光需要の創出を目指します。

具体的には、市民を含む幅広い層に向けた魅力発信を進め、市内外に「こうふFAN」となる応援者の拡大を図ります。また、SNSをはじめとしたデジタル媒体に加え、新たなツールや情報発信の潮流を的確に捉えたプロモーションを展開し、ターゲットに応じた効果的な発信を推進します。さらに、観光情報の一元化を進め、正確で最新の情報を分かりやすく提供することで、検索性や利便性を高めるとともに、大会や研修、学会等の利用促進にもつなげます。

現状・課題

本市では、歴史・自然・文化など多様な観光資源を有している一方で、その魅力が十分に伝わっておらず、情報発信の面で課題を抱えています。観光客アンケートでは、非来訪者の約4割が「甲府で何ができるのか分からない」と回答しており、観光地としての認知度の低さが来訪の障壁となっています。

また、市民に対しても観光の取組や地域の魅力が十分に共有されておらず、市民自らが観光の担い手や応援者として関わる機会が限定的であることが課題です。事業者からも観光行政に対する期待として「情報発信の強化」が挙げられており、市全体での一体的な発信体制の構築が求められています。

現在、本市ではSNS 等を活用した情報発信を進めていますが、観光情報の一元化や発信内容の正確性の向上、市内外に向けた情報提供の更なる強化が必要です。今後は、地域全体で統一感のある広報・ブランド戦略を展開し、市民・事業者・観光客が「こうふFAN」として関係性を深めていく仕組みを整えることで、認知度の拡大や再訪促進、交流人口の拡大につなげていくことが期待されます。

事業	内容
最重点事業 魅力発信による 「こうふFAN」の拡大	本市の取組や魅力を広く知ってもらうため、市民や国内に向けたプロモーションを展開し、本市のファンである「こうふFAN」の拡大を図ります。ホームページやSNSはもちろん、従来の情報発信ツールも活用し、ターゲットをとらえた効率的かつ訴求力のある情報発信を行います。
トレンドをとらえた プロモーションの推進	既存のSNS等による情報発信に加え、新たな情報発信ツールやトレンドにいち早く対応します。ターゲットに応じた訴求力の高いプロモーションを推進し、認知度向上と誘客促進につなげます。
わかりやすい観光情報の提供	観光情報を一元化し、提供内容の管理や定期的な情報精査を行い、正確かつ最新の観光情報をわかりやすく発信します。また、旅行者の目的に応じた検索性を高め、アクセス導線を改善するとともに、大会・研修・学会などの開催地としての利用促進に必要な情報を整理・掲載することで、各種イベント主催者や参加者の利便性を高め、観光客の誘客と来訪機会の創出につなげます。

コラム

世界に誇る　宝石のまち

「宝石のまち甲府」の由来

甲府市が「宝石のまち」と呼ばれる背景には、自然の恵みと職人の技が重なり合ってきた長い歴史があります。御嶽昇仙峡周辺では古くから水晶が産出され、江戸時代にはすでに水晶の研磨や加工が行われていたことが伝えられており、職人たちが磨き続けてきた技術は時代とともに洗練され、明治以降は分業化や機械化を経て大きく発展しました。

現在では、企画・デザインから原料調達、宝石の研磨・彫刻、貴金属加工、流通まで、ジュエリーづくりの全工程が一つのまちにそろう、世界的にも珍しい集積産地となっています。

山梨県　職人の流儀

04 | 基本方針3の具体的な取組

基本方針3：こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進

持続可能な観光振興を進めるためには、市民一人ひとりが本市の魅力に誇りと愛着を持ち、その価値を自らの言葉で観光客に伝えていくことが重要です。観光は行政や事業者だけでなく、市民を含めた地域全体で支えていくものであり、市民の関わりが観光地としての魅力や信頼感を高める基盤となります。

そのため、本市の自然や歴史・文化に子どもの頃から触れる機会を充実させ、本市への理解と愛着を育むとともに、観光客を迎える意識やおもてなし力の向上を図ります。あわせて、市民が観光に主体的に関わり、参加できる仕組みづくりを進めることで、地域全体で観光を支える意識の醸成につなげていきます。

こうした取組を通じて、人材と誇りを育み、市民参画を基盤とした持続可能な観光振興を推進することを本方針に位置付けます。

施策・事業一覧

施策	事業
3－1 こうふ愛を醸成する取組	● こうふの魅力再発見事業 ● こうふの魅力と共に生きる取組 ○ 「甲府を好きになる」イベントの開催
3－2 公民連携による 生活の質を向上させる取組	○ 公民が連携した「大好きな甲府の日常」をまちなかにつくる取組
3－3 市民が観光に関わるための取組	○ イベントを通じた市民参画の推進 ○ SNS等を活用した市民参画の検討 ○ ホスピタリティの向上による来訪者へのおもてなし

★最重点事業　●重点事業　○通常事業

施策3－1：こうふ愛を醸成する取組

本市の魅力や価値を市民自身が再認識し、郷土への誇りと愛着を育むことは、観光振興を支える重要な基盤となります。市民が地域資源に触れ、まちに関わる機会を広げる取組を進めることで、「こうふ愛」の醸成と地域ブランドの向上につなげていきます。

具体的には、遠足や校外学習などを通じた市内観光地で学ぶ機会を創出し、子どもたちをはじめとした市民が歴史や文化に触れられる環境を整えます。また、「甲府ジュエリーラブプロジェクト※6」を推進し、人生の節目にジュエリーを贈る・受け継ぐ文化を広げることで、本市の基幹産業への理解と誇りの醸成を図ります。

現状・課題

観光は地域外からの誘客を目的とする側面が強い一方、本市においては市民がまちの魅力を理解し、応援者となる「内なる観光力」の強化が、地域価値の向上やシビックプライド※7の醸成に不可欠です。

しかし、現状では、地域の歴史や文化などの地域資源に幼少期から触れ、体験する機会が十分とはいえず、本市の魅力を実感するきっかけが生まれにくい状況にあります。

また、本市の基幹産業である宝飾産業についても、市民が日常的に接する機会が限られており、「宝石のまち甲府」としての認知が十分に浸透していません。このため、国内外への発信に加え、市民自身が地域の歴史・文化・産業などの魅力を再発見し、自らのまちに誇りを持てる環境づくりが求められます。

今後は、学校教育や地域のイベントを通じた学習・体験機会を充実させ、世代を超えて暮らしと観光をつなぐ仕組みを構築することで、市民がこうふ愛を育み、地域の応援者として地域づくりに関わる土壌を整えていくことが重要となります。

事業	内容
重点事業 こうふの魅力再発見事業	地域の歴史・文化を改めて知り、学ぶ機会を創出します。市内幼稚園・保育園や小中学校の遠足や校外学習を市内観光地で実施する取組を推進することで、市民がまちの魅力を再発見し、誇りと愛着の醸成につなげます。
重点事業 こうふの魅力と共に生きる取組	「甲府ジュエリーラブプロジェクト」を推進し、人生の節目にジュエリーを贈る・受け継ぐ文化を広げ、市民の誇りと地域ブランドの価値向上につなげます。また、市内高校生及び留学生が観光地を巡る事業を行うなど、市民が自分のまちの地域資源に触れる取組を推進します。
「甲府を好きになる」 イベントの開催	「甲府大好きまつり」や「こうふ開府の日記念イベント」などのイベントを通して、世代を問わず市民がまちの魅力を体感し、郷土への誇りや愛着を育めるよう取り組みます。

※6: 甲府ジュエリーラブプロジェクト
人生の節目（誕生、プロポーズ、継承）に、大切な人へジュエリー（「ベビージュエリー」、「プロポーズジュエリー」、「ヘリテージジュエリー」を贈るという新たなジュエリー文化を提案する取組

※7: シビックプライド
自分が住んでいる、関わっている「まち・地域」への誇りや愛着、当事者意識

施策3－2：公民連携による生活の質を向上させる取組

本市では、市民と観光客の双方が心地よく過ごせるまちづくりを進めるため、公民連携による生活環境の向上に取り組みます。日常の暮らしの中で「幸せで豊かな暮らし」を実感できるまちなかの形成は、都市としての魅力を高めるとともに、観光客の滞在価値の向上にもつながります。

具体的には、公民が協働し、「居心地のいい場所をつくる」、「甲府らしい活動をつくる」、「つながりやすい動線をつくる」の3つの視点からまちなかの環境改善を進め、人が回遊して楽しめる空間と活動づくりを進めます。

これらの取組を通じて、市民の生活満足度の向上と中心エリアにおける賑わいの創出、観光客の滞在時間の延伸を目指します。

現状・課題

中心エリアでは、歩きやすさ、回遊性の弱さなど、受入環境に課題が見られます。このため、市民・観光客の双方が心地よく過ごせるまちなかの形成に向けた取組が求められています。

近年は観光ニーズの多様化により、旅先での生活文化の体験や住民との交流への関心が高まっており、居心地のよい空間や分かりやすい散策導線の整備は、都市観光における重要な要素となっています。また、市民アンケートにおいても、観光分野への期待として「賑わいの創出」を求める声が多く寄せられています。

今後は公民が連携し、交流の場となる空間づくりや甲府らしい日常的な活動の創出、エリア間をつなぐ導線づくりを進めることで、市民の生活満足度と中心エリアの魅力向上を同時に図る必要があります。

事業	内容
公民が連携した「大好きな甲府の日常」をまちなかにつくる取組	公民が連携し、「甲府まちなか未来ビジョン2025」に掲げる「居心地のいい場所をつくる」、「甲府らしい活動をつくる」、「つながりやすい導線をつくる」といった3つの柱に基づき、「幸せで豊かな暮らし」を実感できる甲府のまちなかを目指します。

施策3－3：市民が観光に関わるための取組

本市では、市民一人ひとりが地域の魅力を理解し、観光客を温かく迎える環境を整えることが、観光地としての魅力向上につながり、市民の地域への愛着と誇りの醸成に寄与するものと考えます。そのため、市民が観光に関わる機会を広げ、地域全体で観光を支える体制づくりを進めます。

具体的には、「信玄公祭り」や「小江戸甲府の夏祭り」などのイベントにおいて、市民ボランティアや情報発信への参加機会を設け、市民が主体的に観光運営に関わる仕組みの構築を図ります。あわせて、SNS投稿やフォト企画など、市民が日常の中で気軽に魅力発信に参加できる取組を進め、地域の魅力を広く発信します。また、市内の観光ガイドや観光関連施設における案内機能の充実を図り、研修の開催などによるガイドや観光関連事業者の育成を通じて観光客の受入環境を強化し、来訪者へのホスピタリティの向上を目指します。これらの取組により、市民と観光の関わりをより身近なものとし、市民参画型の観光振興と地域活性化につなげていきます。

現状・課題

観光振興における市民参画の重要性は認識されているものの、市民が観光に関わる機会や役割は限られており、観光への理解や関心が十分に得られていない現状が見られます。

また、観光ガイドや案内機能の充実は来訪者満足度の向上に欠かせない要素である一方、人材の確保やスキル向上を目的とした研修体系が十分に整っていない点も課題となっています。

今後は、市民が観光運営や魅力発信に参加できる仕組みを充実させ、市民と観光が身近に結びつく環境を整備するとともに、ガイド育成や案内機能の強化を通じて、おもてなし力を高め、地域全体で来訪者を受け入れる体制づくりを進める必要があります。

事業	内容
イベントを通じた市民参画の推進	「信玄公祭り」や「小江戸甲府の夏祭り」などのイベントにおいて市民が実際にイベントに参加するほか、ボランティアスタッフの募集や情報発信を促す取組を実施し、市民参画の促進と地域振興につなげます。
SNS等を活用した市民参画の検討	市民参加によるSNS投稿やフォト企画を通じて、市民が魅力発信に参加できる仕組みを検討します。
ホスピタリティの向上による来訪者へのおもてなし	甲府観光ボランティアガイドや日本遺産御嶽昇仙峡ガイドなどの活用により、多様な観光スポットでの案内や解説を充実させます。観光客がより深く魅力を感じられる環境づくりを推進するとともに、各種研修の開催や観光ガイド育成ハンドブックの活用等により、ガイドや観光関連事業者の質を高め、ホスピタリティの向上につなげます。

05 | 基本方針4の具体的な取組

基本方針4：誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実

本市が観光地として選ばれるためには、資源の活用だけでなく、来訪者がストレスなく快適に過ごせる環境づくりが不可欠です。公衆トイレ、案内サインなどの整備や移動手段の充実は、滞在時間の延伸や再訪意向の向上に直結します。また、訪日外国人の誘客に向けては、多言語表示の整備など、インバウンドにも対応した快適性の向上や、誰もが安心して本市の観光を楽しんでいただけるように受入環境を整備し、ユニバーサルツーリズムの推進に取り組むことも求められます。

こうした観点から、国内外すべての来訪者が快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実を、本方針に位置付けます。

施策・事業一覧

施策	事業
4－1 観光関連施設の維持管理と充実	○ 施設の維持管理 ○ 登山道、遊歩道などの維持管理及び安全確保 ○ ユニバーサルツーリズムに向けた取組
4－2 回遊性・周遊性の向上	★ 新たな交通手段の研究 ○ リニア山梨県駅（仮称）の交通結節機能等の検討 ○ レンタサイクルの活用・充実
4－3 インバウンドの誘客	○ 観光情報の多言語化 ● 県央ネットやまなしの取組 ○ 世界的人気キャラクターや甲府城などの歴史を活用したインバウンド誘客

★最重点事業　●重点事業　○通常事業

施策4－1：観光関連施設の維持管理と充実

本市が観光地として選ばれ続けるためには、来訪者が安心して滞在できる受入環境の維持と充実が不可欠です。観光施設や公共空間の適切な管理と、安全性・利便性の向上に取り組むことで、滞在価値の向上と再訪意向の強化につなげていきます。

具体的には、市営駐車場や公衆トイレ、観光案内所など、来訪者の利便性に直結する施設の維持管理と運営を適切に行います。また、登山道や遊歩道については、金峰山、板敷渓谷、中道往還などを対象に、案内板の整備や危険箇所の対応を行い、安全に利用できる環境を確保します。さらに、多機能トイレの整備、多言語表示やピクトグラムの活用など、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた環境整備を推進し、多様な来訪者が安心して観光を楽しめる受入環境の充実を目指します。

現状・課題

観光施設や公共空間の老朽化への対応、登山道や遊歩道の安全確保など受入環境の強化は、観光の快適性・利便性を高める上で重要な課題です。また、誰もが安心して観光を楽しめる環境を実現するためには、バリアフリー化や多言語対応などのユニバーサルデザインの推進が求められます。

観光需要の多様化により、子育て世帯や高齢者、訪日外国人など、施設利用者のニーズは幅広くなっています。このため、観光案内や交通環境を含めたハード面の整備を進めることで、滞在満足度や再訪意向の向上につなげていく必要があります。

事業	内容
施設の維持管理	観光地における市営駐車場や公衆トイレ、観光案内所などを適切に維持・運営し、快適に観光を楽しめる環境整備を推進します。
登山道、遊歩道などの維持管理及び安全確保	登山道・遊歩道の維持管理と安全確保のため、崩落・落石危険箇所への対応や案内板の設置等を実施します。 また、金峰山などの登山道、板敷渓谷・中道往還などの遊歩道を管理し、安全に利用できる環境を整えます。
ユニバーサルツーリズムに向けた取組	多機能トイレの維持管理や多言語・ピクトグラム対応の観光案内表示の増設により、ユニバーサルデザイン化を促進し、誰もが安心して観光を楽しめる環境を整えます。 また、観光地の案内看板の見やすさや情報の分かりやすさを高め、丁寧で正確な情報提供を進めることで、訪れる方が安心して迷わず楽しめる環境づくりを推進します。 さらに、緑が丘スポーツ公園再整備におけるユニバーサルデザイン化を推進するとともに、山梨県と連携し「やまなしパラスポーツセンター」を活用した周知を行うなど、スポーツツーリズムの導入を検討します。

施策4－2：回遊性・周遊性の向上

観光地間を快適に移動できる環境の整備は、滞在時間の延伸や周遊性の向上につながり、観光地としての魅力を高める上で重要です。本市では、観光客と市民の双方にとって利便性の高い移動手段の検討と導入を進め、交通面の受入環境の充実を図ります

具体的には、観光地を結ぶ周遊バスやタクシー、電動モビリティ、シェアサイクルなどの活用可能性について検討を進め、市内の観光地を周遊しやすい交通環境を目指します。あわせて、市民の日常利用にも配慮した、使いやすい移動手段の在り方を検討します。

また、リニア山梨県駅（仮称）の開業を見据え、駅周辺における二次交通の在り方や交通結節機能の強化について、山梨県や交通事業者などと連携し、検討を進めます。さらに、レンタサイクルについては、無人貸出やキャッシュレス対応などの新たな仕組みの導入や、シェアサイクルの活用を検討し、気軽に回遊できる移動手段の充実を図ります。

現状・課題

観光地間の移動手段が十分でないことは、滞在時間の延伸や周遊性の向上を妨げる要因となっており、公共交通を含めた移動環境の充実は、本市の観光振興における重要な課題です。また、市民にとっても移動手段の選択肢が限られていることは、日常生活の利便性や生活の質にも影響を及ぼすこととなります。

今後は、電動モビリティやシェアサイクルなど新たな移動手段の導入に加え、リニア開業を見据えた二次交通の整備を進めることで、観光と暮らしの双方の視点から移動環境の課題解決を図る必要があります。

事業	内容
最重点事業 新たな交通手段の研究	観光地を結ぶ周遊バスやタクシーのほか、電動モビリティやシェアサイクルなどの活用可能性を調査・研究します。観光地間を周遊しやすくすることで来訪者と市民の双方が便利に移動できる仕組みの構築を目指します。
リニア山梨県駅（仮称）の交通結節機能等の検討	リニア山梨県駅（仮称）の利用者が本市や圏域、県内各地を円滑に移動できるよう、リニア開業時の交通需要や次世代モビリティの導入も見据える中で、山梨県や隣接市町、交通事業者等と連携し、駅からの二次交通の在り方や必要な交通結節機能を検討するとともに、利用者の利便性向上の観点から基盤施設の設計を深化させます。
レンタサイクルの活用・充実	レンタサイクルの活用・充実を図るため、現在、こうふ亀屋座で実施している事業を拡充し、アプリを活用した無人の貸出やキャッシュレス決済の導入のほか、シェアサイクルを検討します。また、観光客の回遊性を向上することで渋滞緩和につなげるなど地域住民の生活にも配慮していきます。

施策4－3：インバウンドの誘客

受入環境の整備と情報発信の充実に取り組み、インバウンド需要の獲得を図ります。多様な文化や価値観に配慮した観光地づくりを進めることで、国際的な認知度の向上と来訪機会の拡大を目指します。

具体的には、観光案内所での多言語対応の強化をはじめ、宿泊、食、交通など滞在に関わる情報を分かりやすく整理、集約するとともに、研修等の開催による職員のスキル向上やデジタル技術活用により、外国人旅行者への対応力と情報提供の利便性向上を図ります。

また、県央ネットやまなしによる広域的な取組を通じて、圏域自治体と連携したインバウンド誘客を進めるほか、世界的に知名度の高いキャラクターの活用や、甲府城をはじめとする歴史資源の魅力発信により、本市の特色を活かした国際的な認知度の向上と誘客強化につなげます。

現状・課題

本市には、甲府城などの歴史資源や宝飾産業、御嶽昇仙峡や甲武信ユネスコエコパークといった自然資源など、国際的に訴求可能な魅力があります。しかし、これらの魅力を海外に向けて体系的に伝えるためのブランディングや情報発信の仕組みが十分に整っていない状況です。

一方で、インバウンド需要の回復・拡大が見込まれるなか、訪日外国人が安心して滞在できる受入環境の整備は、これまで以上に重要性を増しています。観光案内所や関連施設における多言語対応の強化に加え、宿泊、食事、交通など滞在に必要な情報を整理し、必要な情報に円滑にアクセスできる環境づくりが課題となっています。

今後は、多言語による情報提供や案内機能の充実、広域連携による誘客促進を進めるとともに、国際市場に伝わりやすい魅力の発信と受入基盤を総合的に整備し、滞在価値の向上と「選ばれる観光地」としての競争力の強化を図る必要があります。

事業	内容
観光情報の多言語化	観光案内所での外国人対応強化（職員のスキル向上・タブレットの活用）や宿泊・食事・交通・通訳などの情報を集約し、多様なニーズに応える多言語の情報発信を行い、インバウンドの受入環境を整えます。
重点事業 県央ネットやまなしの取組	県央ネットやまなしの構成自治体と連携し、各市町が持つ魅力的な観光地や資源をつなげ、インバウンド誘客促進事業などに取り組み、インバウンドの誘客拡大を目指します。
世界的人気キャラクターや甲府城などの歴史を活用したインバウンド誘客	世界的人気キャラクターの活用や甲府城をはじめとした歴史資源を活用し、インバウンドの誘客拡大を目指します。

06 基本方針５の具体的な取組

基本方針５：観光を前進させる体制づくり

観光振興を着実に進めていくためには、行政、観光関連団体、事業者、地域団体、教育機関など、観光に関わる多様な主体が、それぞれの役割を明確にし、共通の方向性のもと、連携して取り組む体制づくりが重要です。

役割分担を明確にすることは、事業の重複や非効率を防ぎ、より効果的な観光施策の推進につながります。また、今後は本市単独の取組にとどまらず、「県央ネットやまなし」をはじめとする広域的な連携を通じて、各自治体が有する多様な観光資源を活かし、広い視点から誘客を図ることが求められます。こうした広域的な連携は、観光地間の周遊性向上や滞在時間の延伸など、相乗効果が期待されます。

これらの取組を担う観光推進体制を構築し、関係者が一体となって観光を推進することで、観光を通じたまち全体の持続的な成長につなげていくことを、本方針に位置付けます。

施策・事業一覧

施策	事業
５－１ 観光推進体制の整理	● 行政と観光関連団体の役割分担の整理と明確化
５－２ 広域連携 （県央ネットやまなし等）の強化	○ 県央ネットやまなし等による広域的な観光の推進
５－３ 観光関連団体及び 事業者等との連携強化	○ 観光関連団体及び事業者・商工団体・教育機関等との連携強化

★最重点事業　●重点事業　○通常事業

施策５－１：観光推進体制の整理

観光施策を効果的かつ持続的に推進していくため、本市では、行政や観光関連団体が担う役割や機能を整理し、効率的な体制構築を進めます。役割分担を明確にすることで、施策の方向性や取組内容の一貫性を高め、観光振興における成果の創出につなげていきます。

具体的には、行政と観光関連団体がそれぞれの業務領域や機能を見直し、各主体の強みを活かした役割分担のもとに連携を強化することで、協働性と実行力の高い観光推進体制を整え、より効果的な観光振興を図ります。

現状・課題

本市ではこれまで行政と観光関連団体が連携し、多様な観光施策に取り組んできましたが、役割の重複や業務範囲の不明確さといった課題が残されています。その結果、事業の効率性や施策効果の最大化につながりにくい状況が見られます。

今後は行政と観光関連団体が相互に補完し合う体制を構築するとともに、それぞれの強みを活かした役割整理と連携強化を進める必要があります。あわせて、戦略的な観光地経営を推進するために、マーケティング戦略に基づく事業展開や情報発信を一元的に管理する仕組みの整備が必要です。

事業	内容
重点事業 行政と観光関連団体の 役割分担の整理と明確化	観光関連団体・行政の役割を整理し、強みを活かした体制をつくります。また、役割を整理することで、効率的で一貫性のある観光を推進します。

施策５－２：広域連携（県央ネットやまなし等）の強化

周辺自治体との広域的な連携を強化し、観光誘客の拡大と周遊性の向上につなげていきます。本市単独の取組にとどまらず、「県央ネットやまなし」をはじめとした広域連携を推進することで、各地域が有する多様な観光資源を相互に活用できる体制を整え、魅力ある観光圏の形成と滞在時間の延伸を図ります。

具体的には、県央ネットやまなし観光エリアが有する自然、歴史・文化などの地域資源を活かし、市町村の枠を越えた誘客や周遊の促進につなげていきます。

現状・課題

山梨県におけるインバウンド需要は富士五湖エリアに集中しており、その効果が県内全体に十分波及していないことが課題となっています。県内観光の経済波及効果を高めるためには、富士山周辺の観光に加え、その他のエリアへの周遊を創出していく視点が重要です。

本市においても、市内観光のみでは滞在日数や観光消費の拡大につながりにくい傾向があり、周辺自治体と連携した誘客や広域観光による観光商品の造成が求められています。

今後は、県央ネットやまなしを中心とした広域観光エリアとしての連携を一層強化するとともに、新たな周遊ルートの形成や共同プロモーションの検討を進めることで、滞在機会の創出と誘客の拡大につなげていく必要があります。

事業	内容
県央ネットやまなし等による広域的な観光の推進	県央ネットやまなし観光エリアが有する多様な観光資源を活用し、市町村の枠を越えた観光誘客と周遊促進につなげます。

施策５－３：観光関連団体及び事業者等との連携強化

地域全体で観光を支え、持続的な誘客につなげていくため、観光関連団体や事業者、商工団体、教育機関など、多様な主体との連携強化を進めます。官民を問わず幅広い関係者が情報を共有し、それぞれの役割を補完し合うことで、観光施策の実効性と推進力を高めていきます。

具体的には、観光関連事業者や商工会議所、農業協同組合、教育機関等と連携し、共同プロモーションの実施や観光商品の造成、新たな企画の検討を進めることで、地域資源を活かした誘客施策を展開します。こうした連携体制の強化により、地域一体となって本市の魅力向上と持続的な観光振興につなげていきます。

現状・課題

本市ではこれまで、観光関連団体や事業者、商工団体、教育機関など、多様な主体がそれぞれの立場から観光振興に取り組んできましたが、情報共有や役割分担が十分とはいえず、連携体制が限定的であることが課題となっています。また、観光ニーズの多様化・高度化が進む中、行政や観光事業者のみでの対応には限界があり、幅広い主体の参画と協働が求められます。

今後は、観光・商工・教育分野等が継続的に連携できる体制を整え、地域全体が一体となって観光振興を推進することが必要です。

事業	内容
観光関連団体及び事業者・商工団体・教育機関等との連携強化	観光関連事業者・商工会議所・農業協同組合・教育機関等と連携しながら、BIツール※8等を活用した情報共有や共同プロモーション、観光商品造成などを検討し、地域一体となって観光振興に取り組みます。

※8：BIツール（Business Intelligence Tool）
企業等に蓄積された大量のデータを収集・分析・可視化し、迅速な意思決定を支援する

★最重点事業　●重点事業　○通常事業

基本方針1　エリアごとの強みを引き出す観光地づくり

施策	事業
1−1 北部エリアの観光地づくり	★ **「信玄の湯 湯村温泉」再開発事業への支援** ★ **「日本遺産 御嶽昇仙峡」の取組による地域活性化**
1−2 中心エリアの観光地づくり	● **こうふ亀屋座・小江戸甲府花小路を活用した賑わいの創出** ● **甲府城の活用及び周辺地域の活性化** ● **まち歩きの推進** ○ ナイトタイムエコノミーの推進 ○ 武田氏館跡周辺地域の整備と活用 ○ 遊亀公園附属動物園のリニューアル ○ 甲斐善光寺、山梨県立美術館等の活用
1−3 南部エリアの観光地づくり	● **リニア山梨県駅（仮称）周辺のまちづくりの検討** ○ 小瀬スポーツ公園の来場者に周遊してもらう取組の推進 ○ 甲府南IC周辺施設を活用した取組

基本方針2　甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化

施策	事業
2−1 『山の都こうふ』の推進	● **県央ネットやまなしによる山のぼり・まち歩きの促進** ○ 甲武信ユネスコエコパークや甲府名山を活用した山歩きの推進 ○ スポーツ・アウトドアアクティビティの推進
2−2 『甲府ブランド』の活用と磨き上げ	★ **ジュエリーを活用した誘客と地域経済活性化** ○ 伝統工芸・食・ワインの活用 ○ 農産物の魅力発信と交流促進事業
2−3 武田氏の歴史を活用した観光推進	● 史跡武田氏館跡の復元公開・活用 ○ 信玄ミュージアムの活用 ○ 武田氏ゆかりの地の活用
2−4 ユニークなコンテンツを活用した取組の推進	○ アニメ等を活用したプロモーションの実施 ○ 甲府ふるさと大使ハローキティの活用
2−5 選ばれる甲府に向けたマーケティングプロモーションの強化	★ **魅力発信による「こうふFAN」の拡大** ○ トレンドをとらえたプロモーションの推進 ○ わかりやすい観光情報の提供

基本方針3　こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進

施策	事業
3−1 こうふ愛を醸成する取組	● **こうふの魅力再発見事業** ● **こうふの魅力と共に生きる取組** ○ 「甲府を好きになる」イベントの開催
3−2 公民連携による生活の質を向上させる取組	○ 公民が連携した「大好きな甲府の日常」をまちなかにつくる取組
3−3 市民が観光に関わるための取組	○ イベントを通じた市民参画の推進 ○ SNS等を活用した市民参画の検討 ○ ホスピタリティの向上による来訪者へのおもてなし

基本方針4　誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実

施策	事業
4−1 観光関連施設の維持管理と充実	○ 施設の維持管理 ○ 登山道、遊歩道などの維持管理及び安全確保 ○ ユニバーサルツーリズムに向けた取組
4−2 回遊性・周遊性の向上	★ **新たな交通手段の研究** ○ リニア山梨県駅（仮称）の交通結節機能等の検討 ○ レンタサイクルの活用・充実
4−3 インバウンドの誘客	○ 観光情報の多言語化 ● **県央ネットやまなしの取組** ○ 世界的人気キャラクターや甲府城などの歴史を活用したインバウンド誘客

基本方針5　観光を前進させる体制づくり

施策	事業
5−1 観光推進体制の整理	● **行政と観光関連団体の役割分担の整理と明確化**
5−2 広域連携（県央ネットやまなし等）の強化	○ 県央ネットやまなし等による広域的な観光の推進
5−3 観光関連団体及び事業者等との連携強化	○ 観光関連団体及び事業者・商工団体・教育機関等との連携強化

5

第5章

実現に向けて

01 | 推進体制

庁内・関係事業者の分野横断的な観光推進体制の構築

本計画に位置付けた事業については、市関係各課、観光関連事業者、関係団体、市民がそれぞれの役割のもと、相互に連携しながら推進していきます。

庁内においては、本市観光の進行役として観光課が中心となり、各行政分野を横断的につなぐ役割を果たします。関係部署の連携や参画を促すことで、観光行政として総合的かつ一体的な推進体制を構築します。

また、関係機関との定期的な情報共有や意見交換を通じて、事業の進捗管理や効果検証を適切に行うとともに、社会情勢や観光のニーズの変化を踏まえ、必要に応じて施策の見直しや改善を図ります。こうした取組により、持続可能で魅力ある観光地づくりを着実に進めていきます。

◆各主体に期待される役割

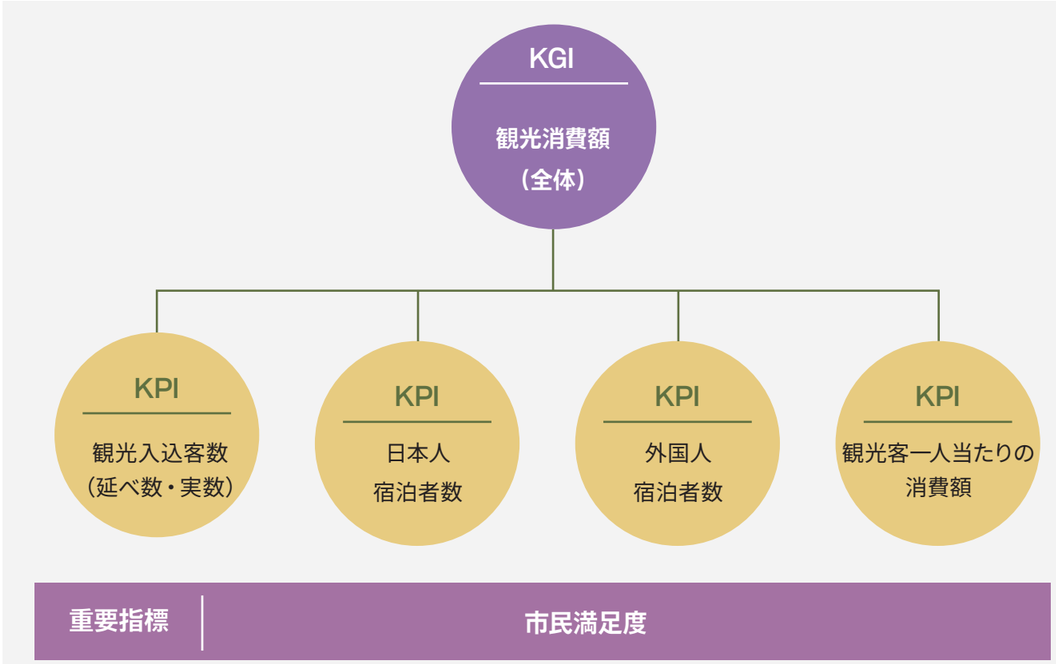
主体	期待される主な役割
甲府市	◇本市の観光を取り巻く多様な関係者の連携を促進する中心的な役割を担い、受入環境の整備や誘客促進事業等の実施、民間事業者への支援、またそれらに係る予算の確保等を行う。 ◇個々の事業者だけでは対応が難しい広域的な情報発信や新たな市場の開拓に向けた取組を推進する。 ◇危機管理や安全対策に関する体制を整備し、安心して訪れることができる観光地づくりを進める。
観光協会	◇観光客受入れの窓口として、誘客や情報発信の中核的な役割を担う。 ◇イベントの企画・運営や商品の造成、事業者間の連携促進など、現場に近い実践的な取組を主体的に担う。
地域DMO	◇エリアの戦略的事業の展開を進めるとともに、地域の観光データの収集及びその分析を行い、甲府市の観光振興に資する事業戦略の実現を支える。
観光関連事業者	◇宿泊、飲食、体験、交通などの分野において、観光の現場を支え、質の高いサービス提供と魅力づくりを担う。
各種団体	◇商工業や農業関係団体、教育機関などが、各々の立場から観光と連携し、取組の裾野拡大や持続性の確保を支える。
市民	◇地域活動や日常生活における来訪者の受け入れ、地域文化の継承などを通じて観光に関わり、温かなおもてなしの基盤を形成する。 ◇SNS等を活用した情報発信により、甲府の魅力を市内外に発信する。
県央ネットやまなし	◇構成市町が有する多様な観光資源や交通網を活用して、単独の市町では生み出しにくい広域周遊ルートの形成や情報発信を通じ、来訪者の圏域内の周遊促進と滞在時間の延伸を図る。

02 | 数値目標

第４次甲府市観光振興基本計画における数値目標

本市ならではの地域資源を観光の力として活かし、「観光による地域経済の活性化」と「市民の誇りと満足度の向上」を両立させる持続可能な観光振興を進め、本市の目指すべき観光地像を実現するため数値目標を設定します。

本計画におけるKGI（重要目標達成指標）及びKPI（重要業績評価指標）、重要指標については、新たな調査によるデータの収集が必要であることに加え、令和８年度を初年度とする「第５次観光立国推進基本計画」と整合の取れた数値とする必要があります。このため、令和８年度を数値目標設定に向けた準備期間と位置付け、数値目標は令和９年度に設定します。



◆重要指標：「市民満足度」設定の理由

観光は経済効果だけを目的とするものではなく、市民が地域の魅力に気付き、誇りと愛着が育まれ、観光客をおもてなしの心で迎え入れる「好循環」を生み出すものです。

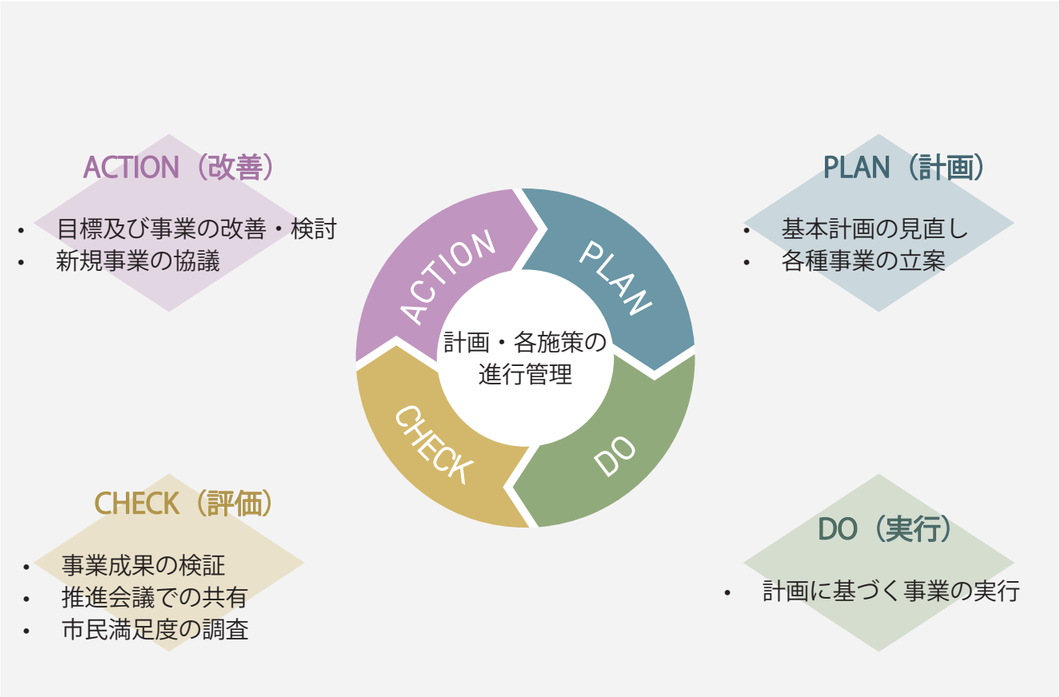
こうした市民の誇り・愛着の高まりこそが観光の持続的発展を支える基盤と考えることから、市民の満足度を重要指標として位置付けます。

03 | 進行管理

（1）PDCAサイクルによる進行管理

本計画の進行にあたっては、最重点事業をはじめとする各事業の実施状況や評価を、有識者や観光関連事業者で構成する「甲府市観光振興基本計画推進会議」（以下、推進会議）において、PDCAサイクルに基づき事業の進捗や改善点等の評価・検証を定期的に行います。

なお、計画に位置付けた各事業については、観光動向や社会情勢の変化などに応じて適宜見直しを図ります。



（2）推進会議

推進会議のメンバーは、学識経験者、山梨県、観光関連団体、交通事業者、商工会議所等で構成しており、本市の観光行政の方向性や施策の妥当性について多角的な視点から意見をいただきながら、計画の着実な推進を図ることを目的としています。

「第４次　甲府市観光振興基本計画」

発行日	令和８年（2026）年３月
発行	甲府市
編集	甲府市 産業部 商工観光室 観光課
住所	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内１丁目 18 番１号
電話番号	055-237-1161（代表）